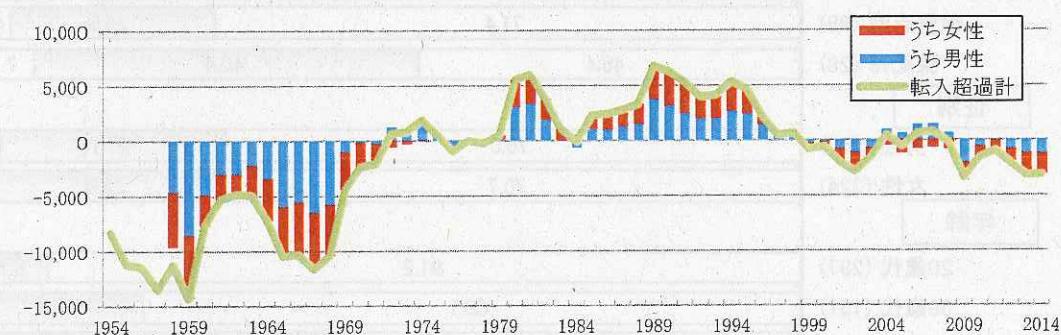


3 三重県における人口移動（社会増減）分析

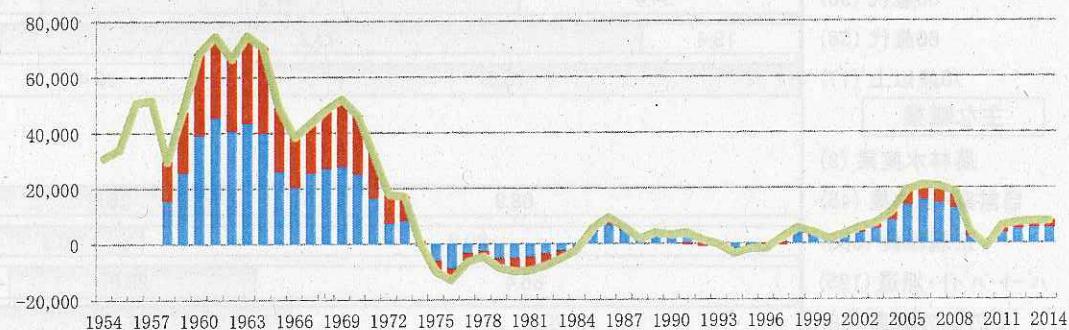
(1) 三重県及び他県における社会増減の推移

- データのある 1954 年から 2014 年までの三重県と大都市都府県における男女別の転出入超過数の推移を見たのが次のグラフです。原点 (0) から上が転入超過、下が転出超過になります。

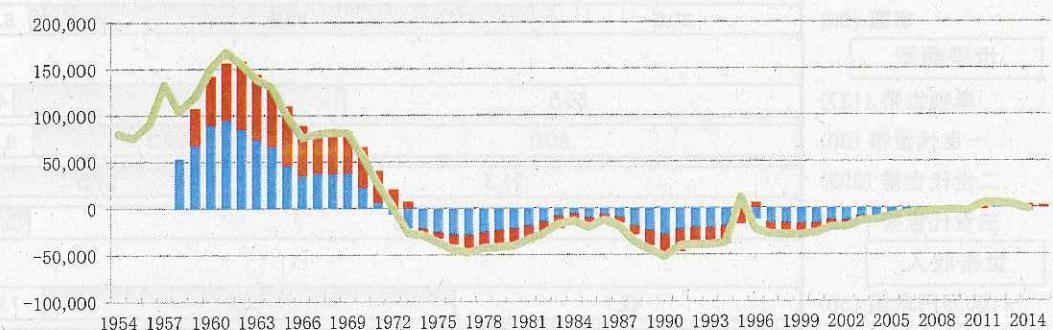
【図 II-30】三重県



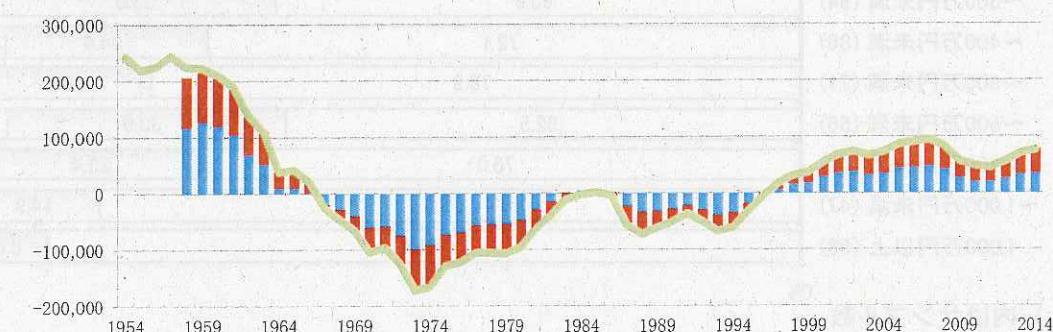
【図 II-31】愛知県



【図 II-32】大阪府



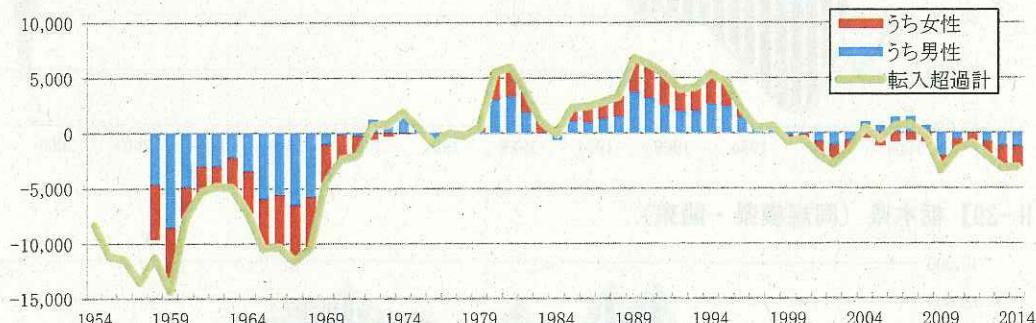
【図 II-33】東京都



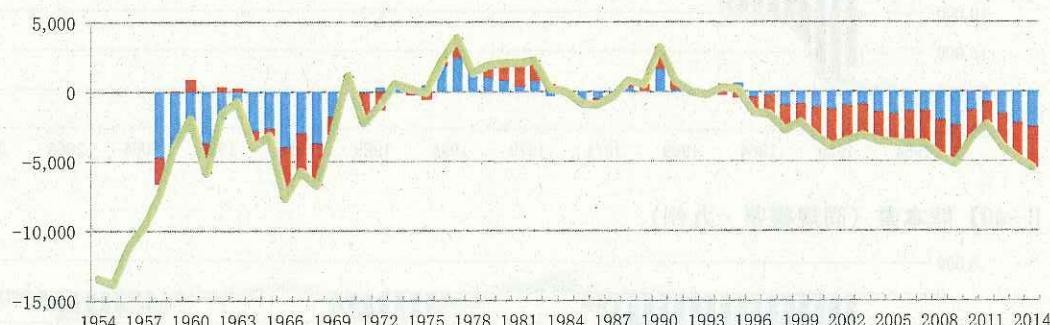
※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

- データのある 1954 年から 2014 年までの三重県と近隣県、同規模県における男女別の転出入超過数の推移を見たのが次のグラフです。原点（0）から上が転入超過、下が転出超過になります。

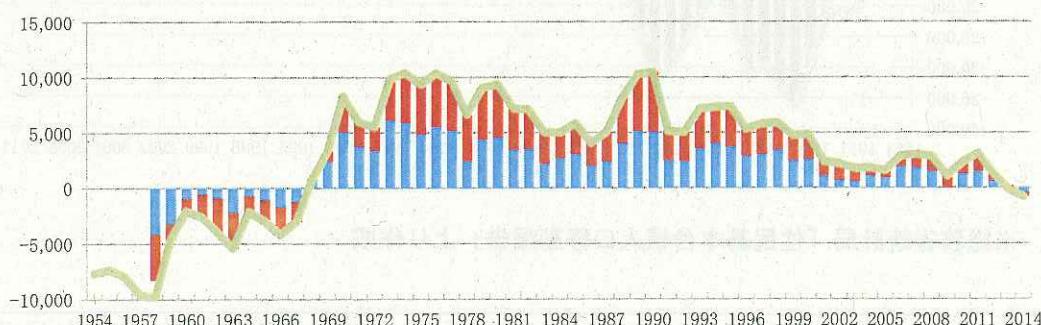
【図 II-34】三重県（再掲）



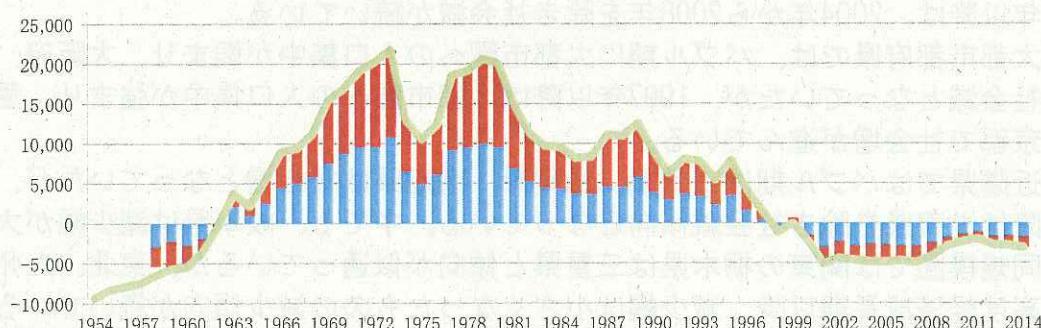
【図 II-35】岐阜県



【図 II-36】滋賀県

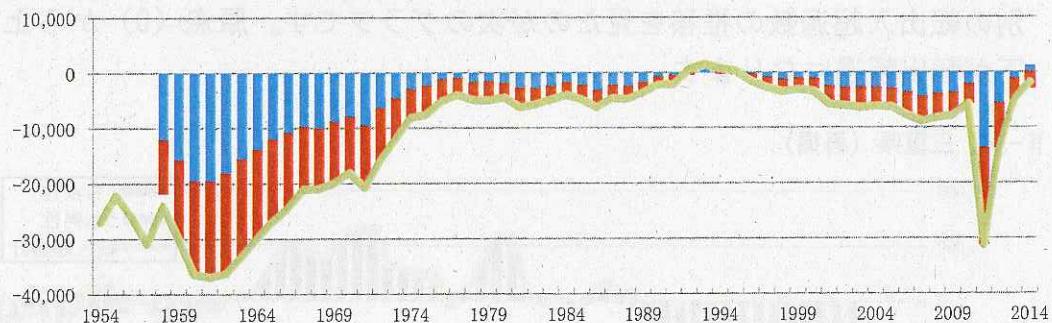


【図 II-37】奈良県

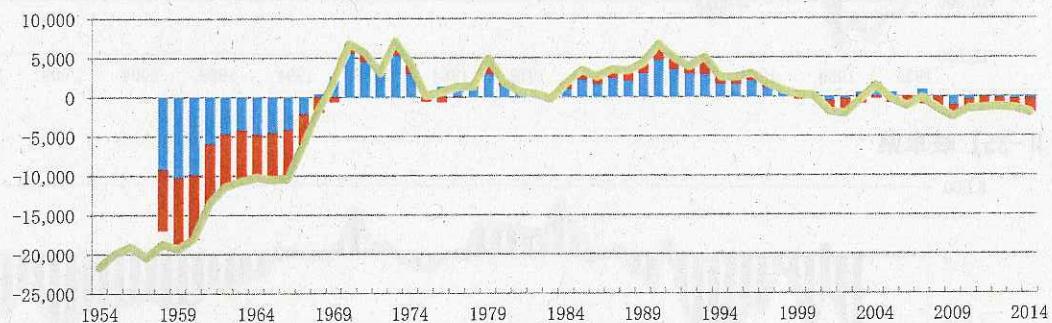


※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

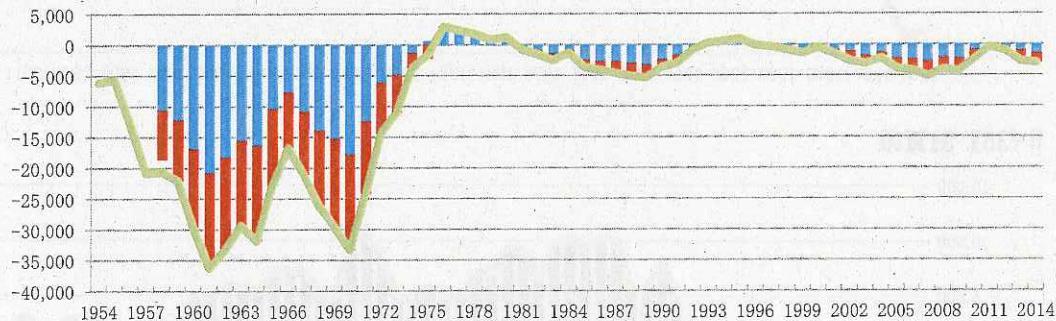
【図 II-38】福島県（同規模県・東北）



【図 II-39】栃木県（同規模県・関東）



【図 II-40】熊本県（同規模県・九州）



※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

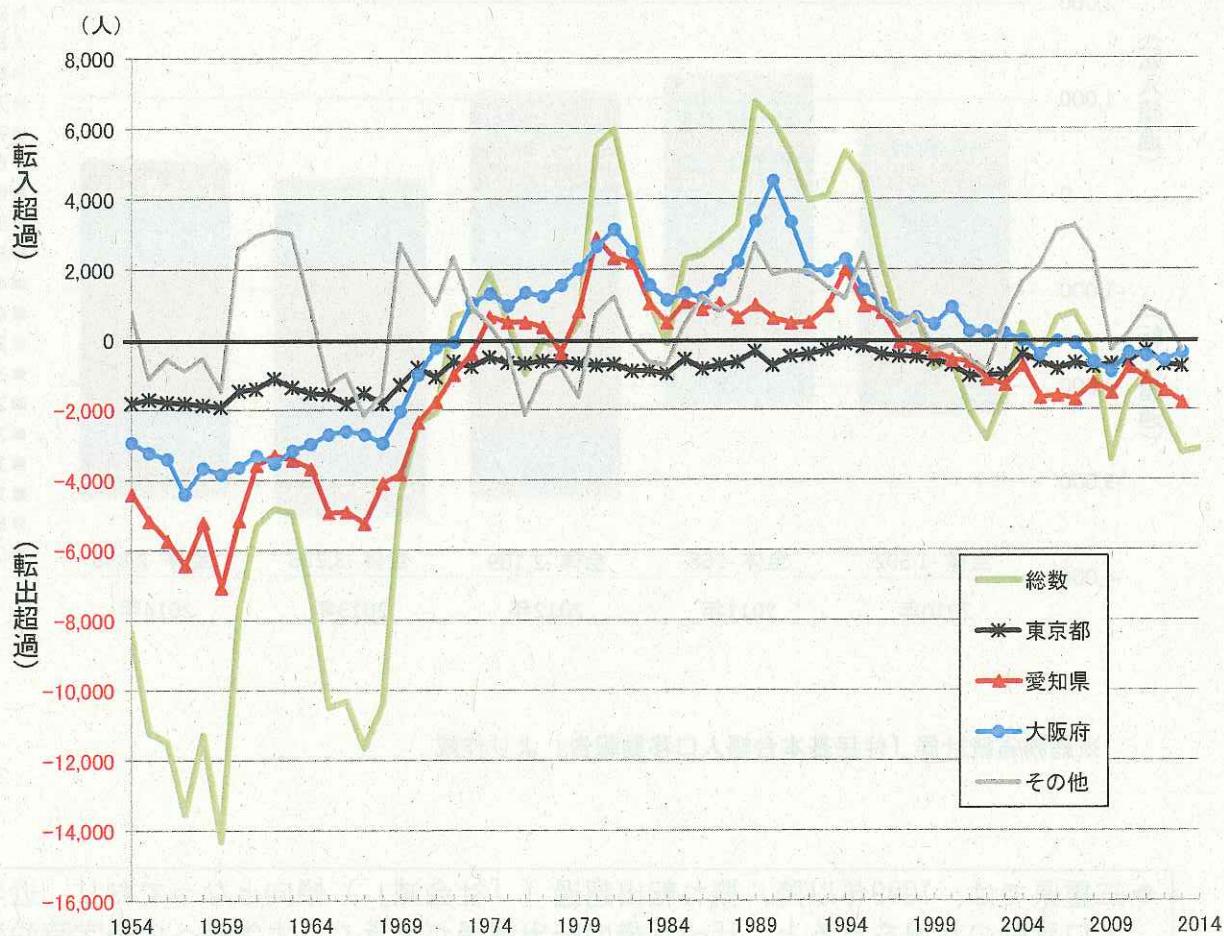
- 三重県は安定成長期に入った頃から大幅な社会増が続き、急激な円高が進んだ1980年半ばに一時的に社会減となったものの、バブル期にかけて社会増が進んだ。1997年以降は、2004年から2008年を除き社会減が続いている。
- 大都市都府県では、バブル期に大都市圏への人口集中が弱まり、大阪府、東京都で社会減となっていたが、1997年以降は大都市圏への人口集中が強まり、愛知県、東京都で社会増が進んでいる。
- 近隣県ではバブル期は三重県、滋賀県、奈良県は社会増となっていたが、1997年以降は滋賀県を除き社会減傾向となっている。中でも、岐阜県は減少幅が大きい。
- 同規模圏では関東の栃木県は三重県と傾向が似通っているが、東北、九州の県では高度経済成長期以降、減少幅は小さくなつたものの減少傾向が続いている。

(2) 三重県と他都道府県間の人口移動の推移

- データのある 1954 年から 2014 年までの三重県から他都道府県に対する転入超過数の推移を見たのが次のグラフです。原点 (0) から上が転入超過、下が転出超過になります。

【図 II-41】

三重県と他都道府県間の人口移動の推移



※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

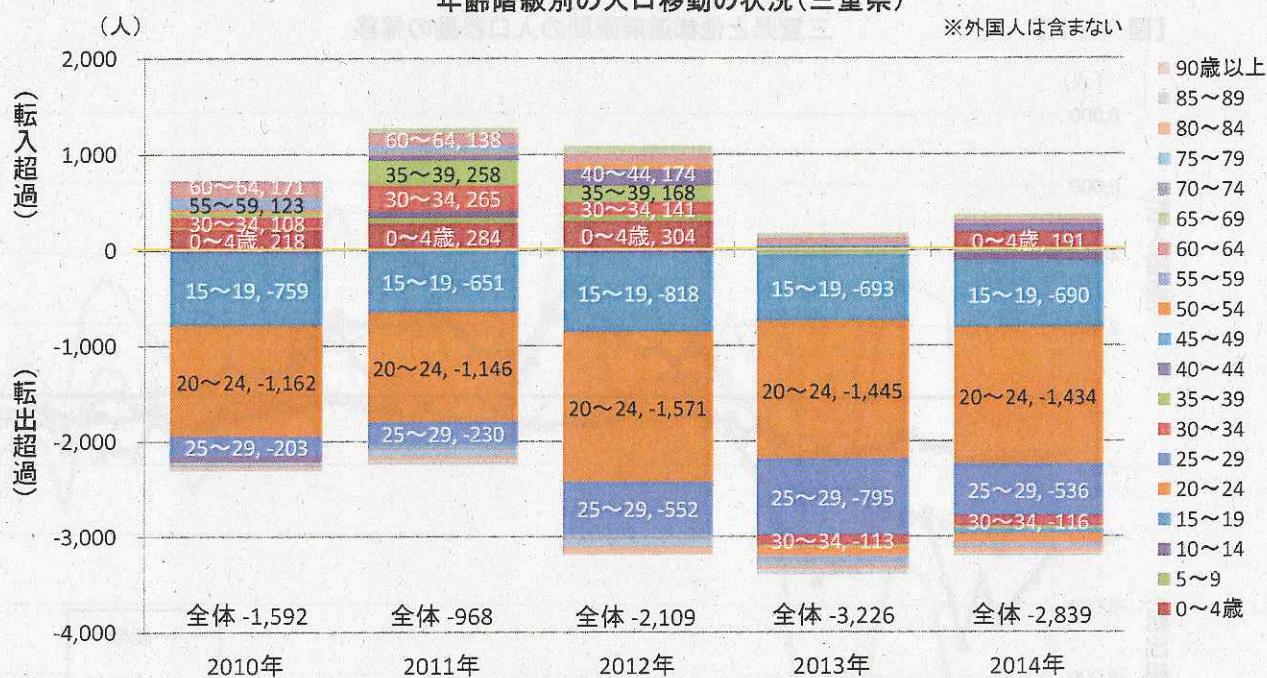
- 対東京都：転出超過が続いているが、あまり変動はみられない。
- 対愛知県：1974年から1996年は概ね転入超過であったが、1997年以降は転出超過に転じている。
- 対大阪府：1973年から2003年に、特にバブル期前後に大幅な転入超過であったが、2004年以降は転出超過に転じている。
- 対その他：1980年以降、概ね転入超過となっており、特に2004年から2008年に大きく転入超過となった。

(3) 最近の年齢階級別的人口移動状況

- 三重県における2010年から2014年の人口移動について、年齢階級別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 II-42】

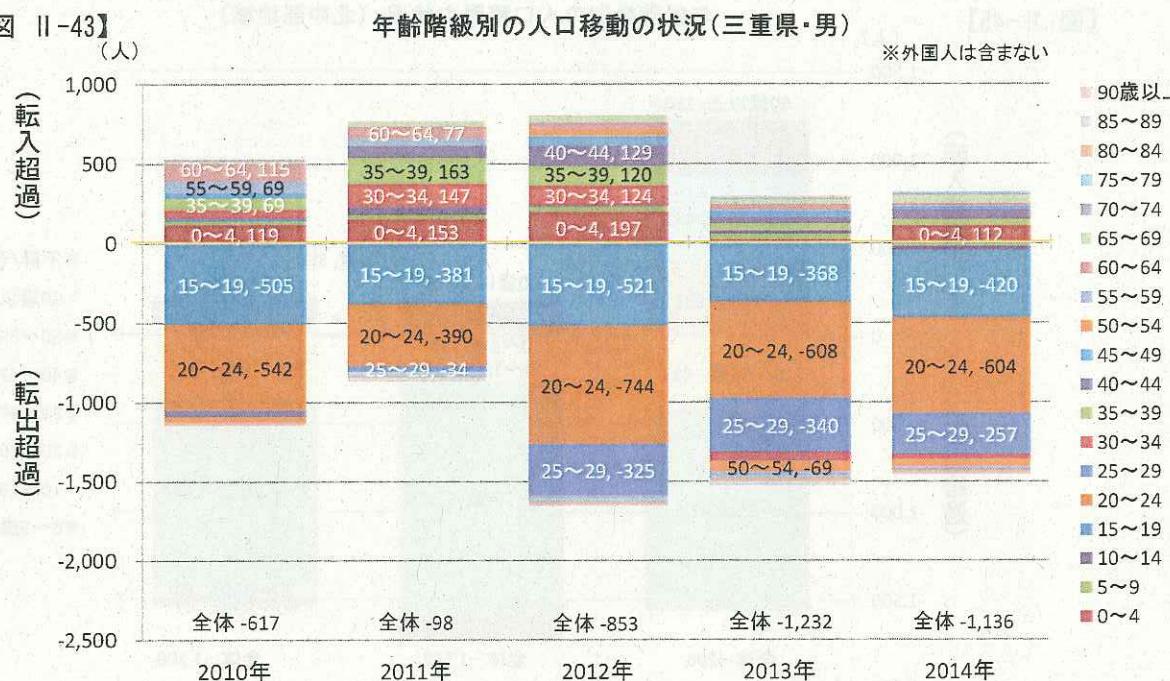
年齢階級別的人口移動の状況(三重県)



- 三重県では、1999年以降、概ね転出超過（「社会減」）傾向となっており、近年の人口移動の状況を見ると、15～29歳の転出超過が大きく、大学等への進学時や就職時に多いことが背景にあると考えられる。
- その他の年齢階級では転入超過がみられたが、2013年以降大きく減少している。

- 三重県における2010年から2014年の人口移動について、性別・年齢階級別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

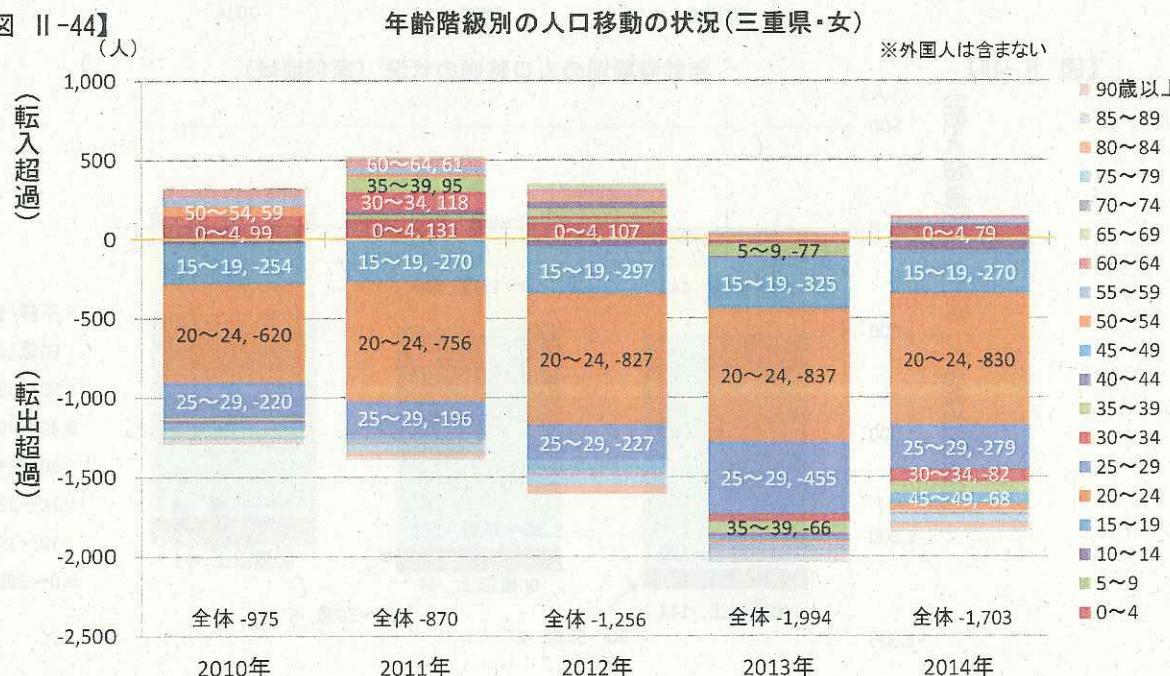
【図 II-43】



年齢階級別の人団移動の状況(三重県・男)

※外国人人は含まない

【図 II-44】



年齢階級別の人団移動の状況(三重県・女)

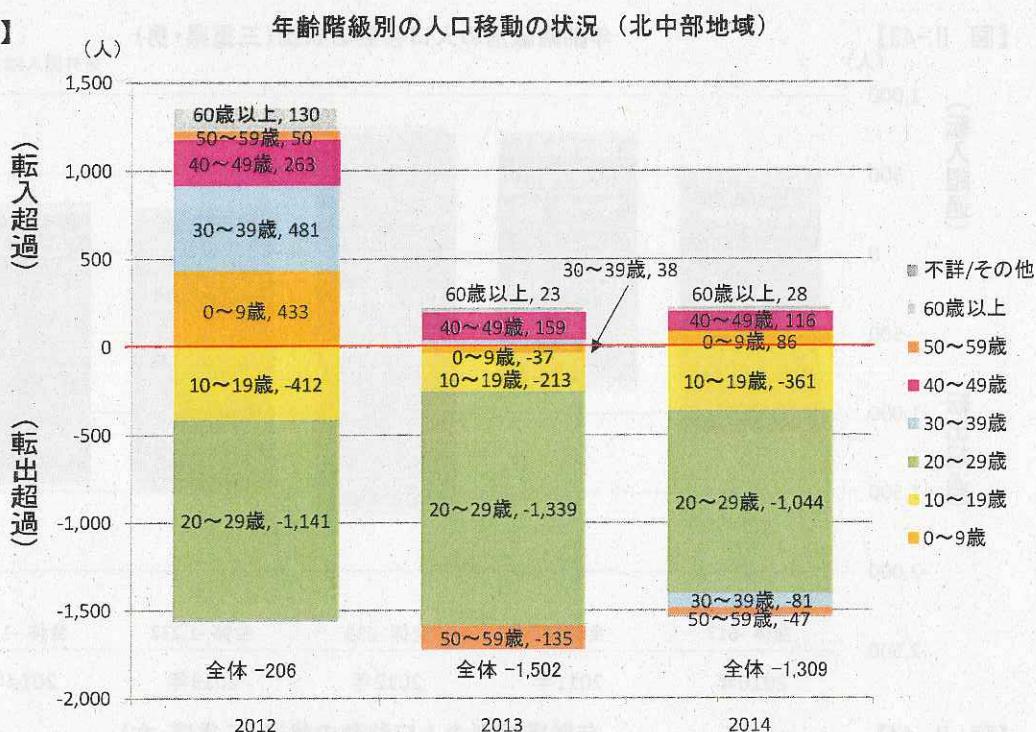
※外国人人は含まない

※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

- 男性は、女性に比べ、15~19歳の転出超過が大きくなっている。
- 女性は、男性に比べ、全年齢階級合計の転出超過が大きく、特に、20~24歳の転出超過が大きくなっている。
- 男女ともに、15~29歳以外の年齢階級では概ね転入超過がみられたが、2013年以降大きく減少している。

- 北中部地域及び南部地域における2012年から2014年の人口移動について、年齢階級別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 II-45】



【図 II-46】

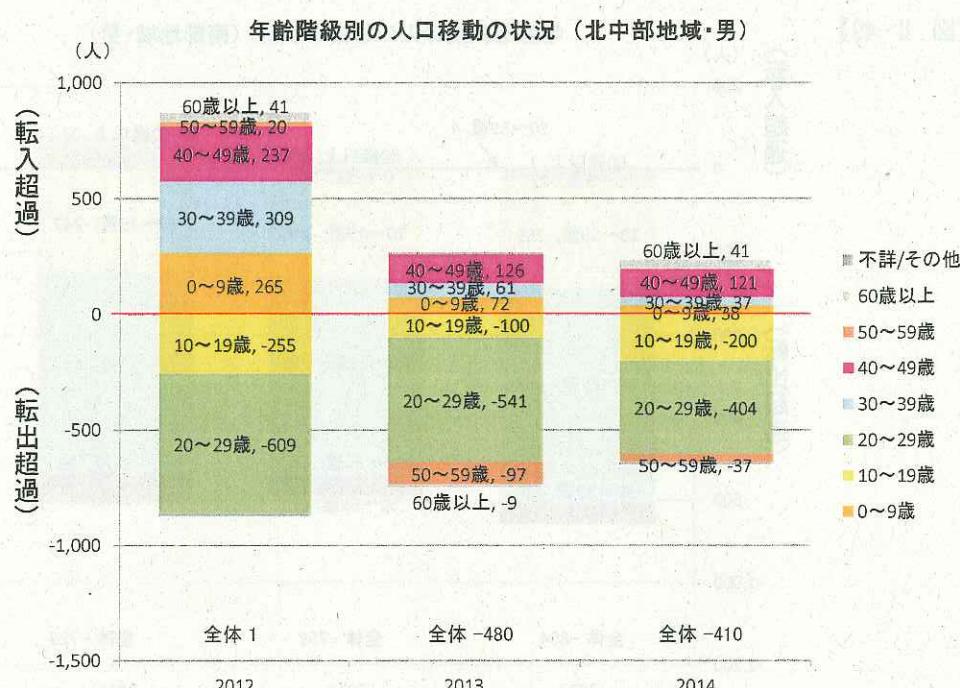


※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

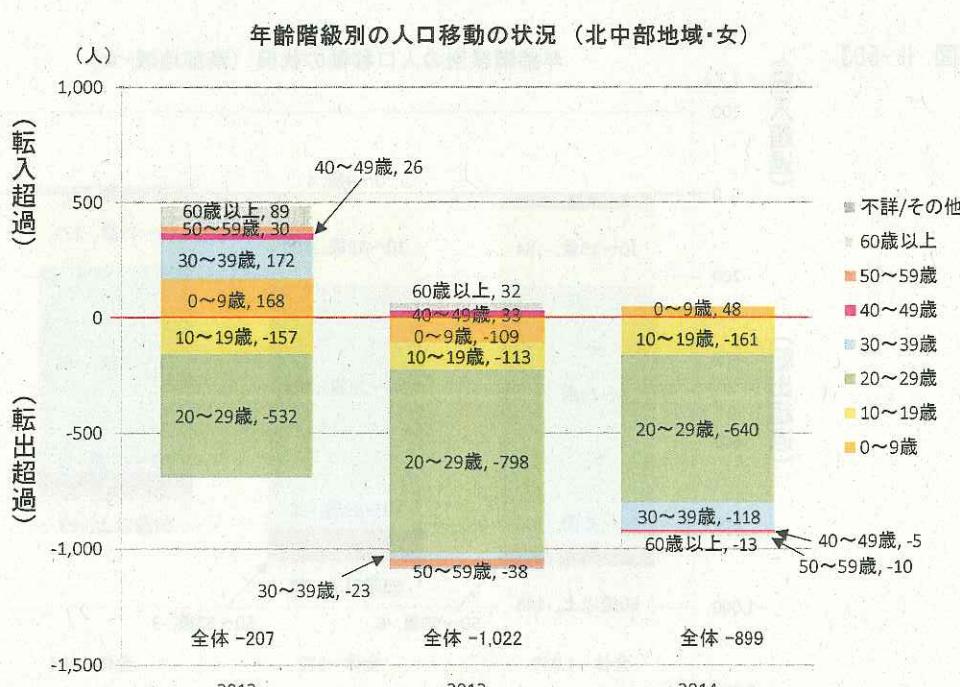
- 北中部地域及び南部地域ともに、10～29歳の転出超過が大きく、大学等への進学時や就職時に多いことが背景にあると考えられる。北中部地域のその他の年齢階級では転入超過がみられたが、2013年以降大きく減少している。

○ 北中部地域における2010年から2014年の人口移動について、性別・年齢階級別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 II-47】



【図 II-48】



※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

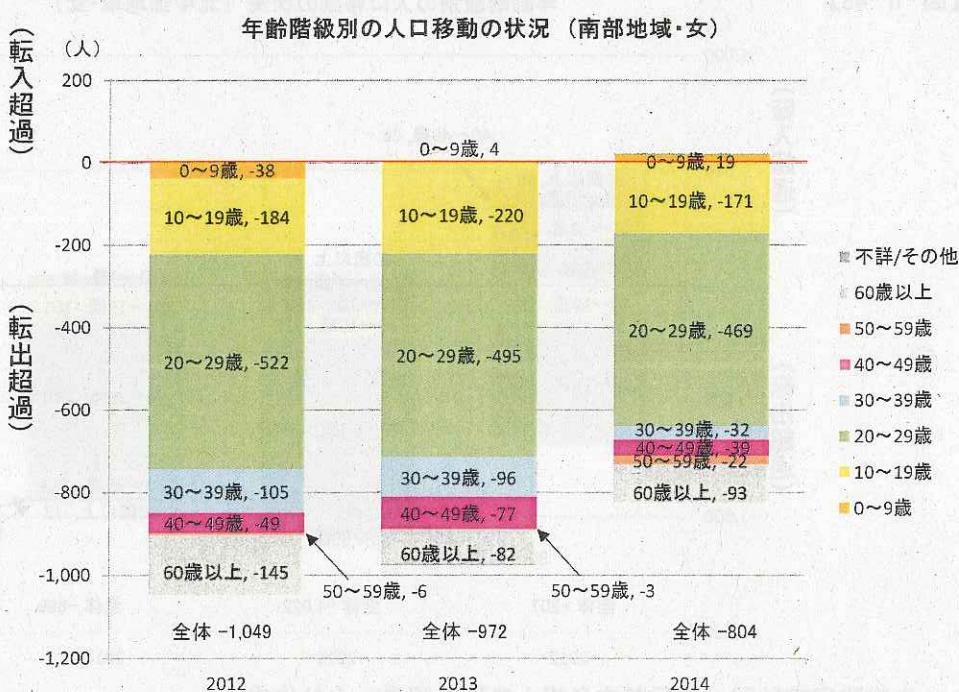
- 男性は、女性に比べ、10～19歳の転出超過が大きくなっている。
- 女性は、男性に比べ、全年齢階級合計の転出超過が大きく、特に、20～29歳の転出超過が大きくなっている。
- 男女ともに、10～29歳以外の年齢階級では転入超過がみられたが、2013年以降大きく減少している。

- 南部地域における2010年から2014年の人口移動について、性別・年齢階級別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 II-49】



【図 II-50】



※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

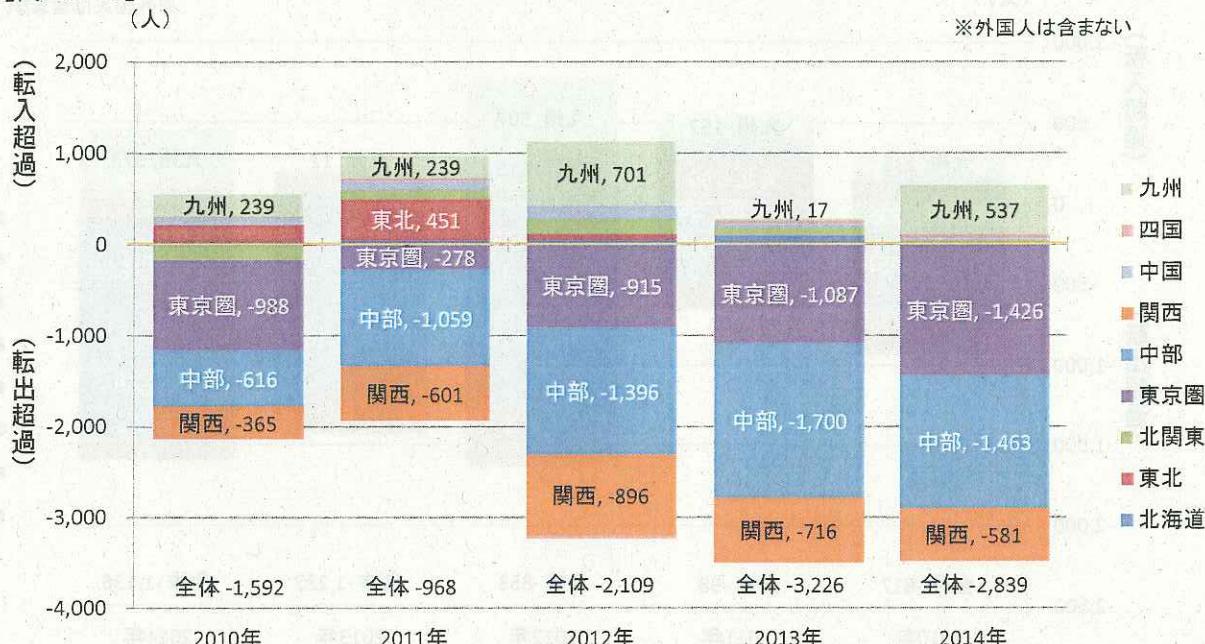
- 男性は、女性に比べ、10~19歳の転出超過が大きくなっている。
- 女性は、男性に比べ、全年齢階級合計の転出超過が大きく、特に、20~29歳、60歳以上の転出超過が大きくなっている。

(4) 最近の地域ブロック別の人団移動状況

- 三重県における2010年から2014年の人口移動について、地域ブロック別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 II-51】

地域ブロック別の人団移動の状況(三重県)



※地域ブロックの区分は下記のとおり

東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

北関東：茨城、栃木、群馬

東京圏：埼玉、千葉、東京、神奈川

中部：新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

関西：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口

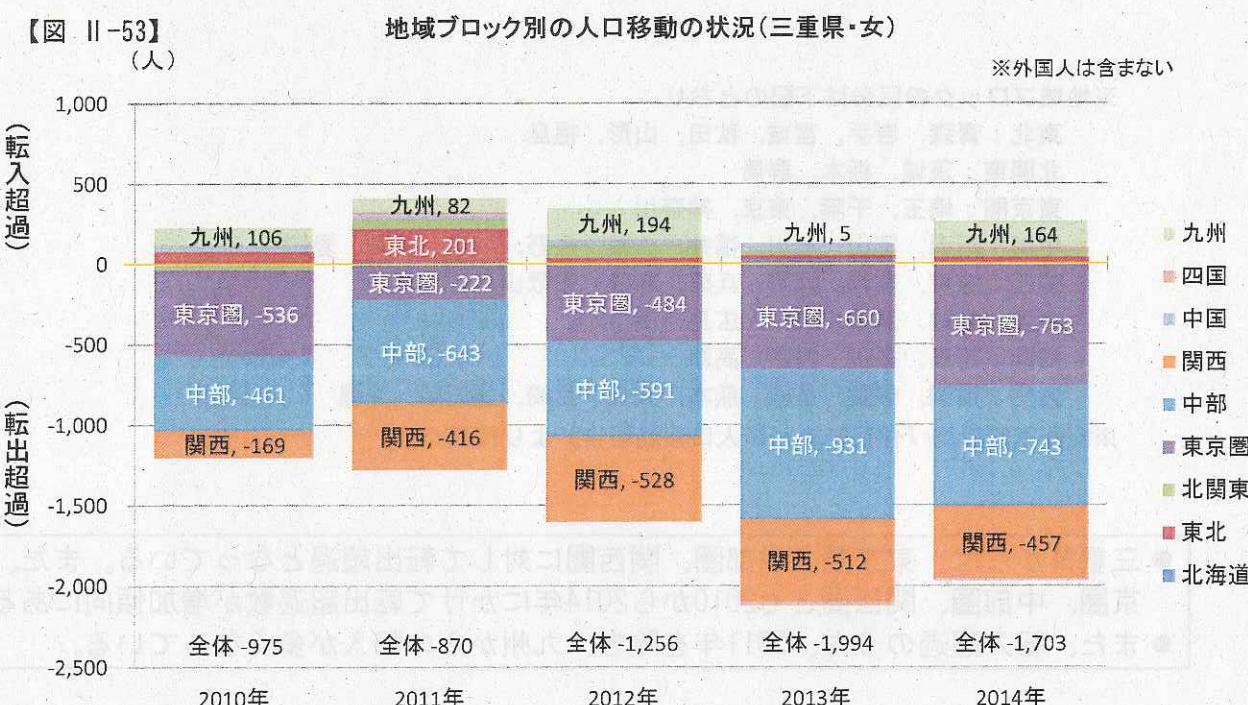
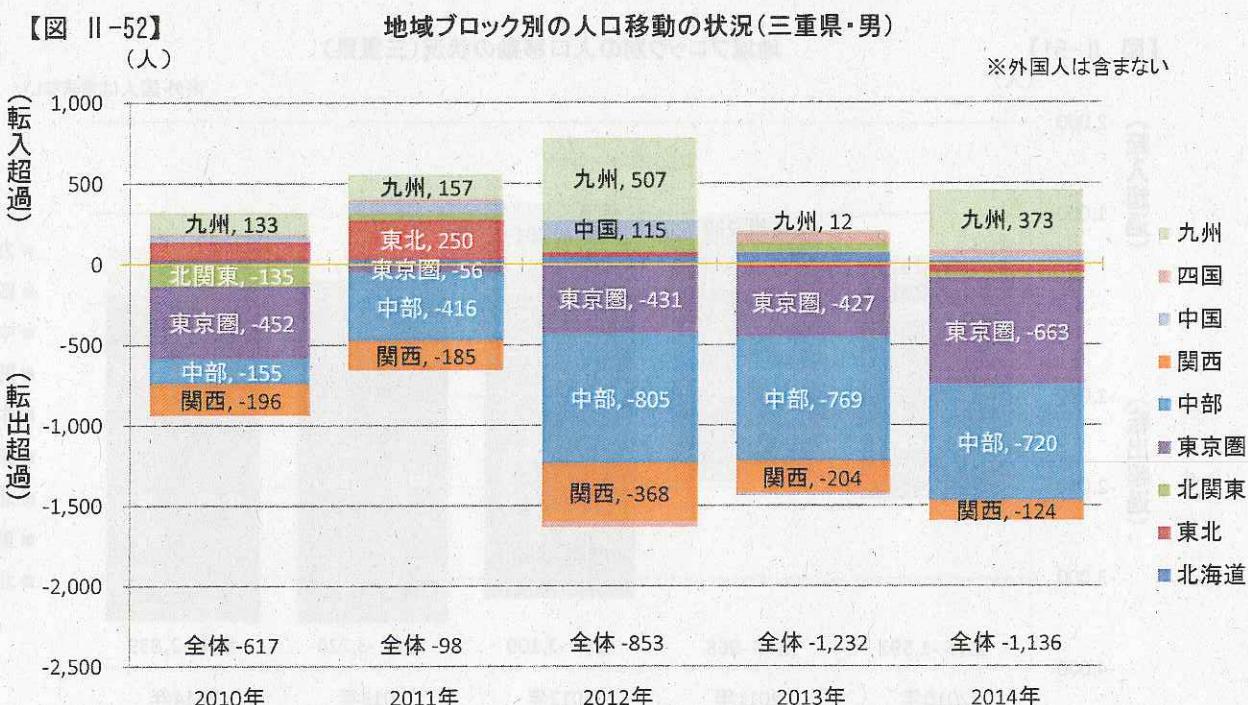
四国：徳島、香川、愛媛、高知

九州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

- 三重県からは、東京圏、中部圏、関西圏に対して転出超過となっている。また、東京圏、中部圏、関西圏とも2010から2014年にかけて転出超過数が増加傾向にある。
- また、転入超過のうち、2011年を除き、九州からの転入が多くなっている。

- 三重県における2010年から2014年の人口移動について、性別・地域ブロック別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

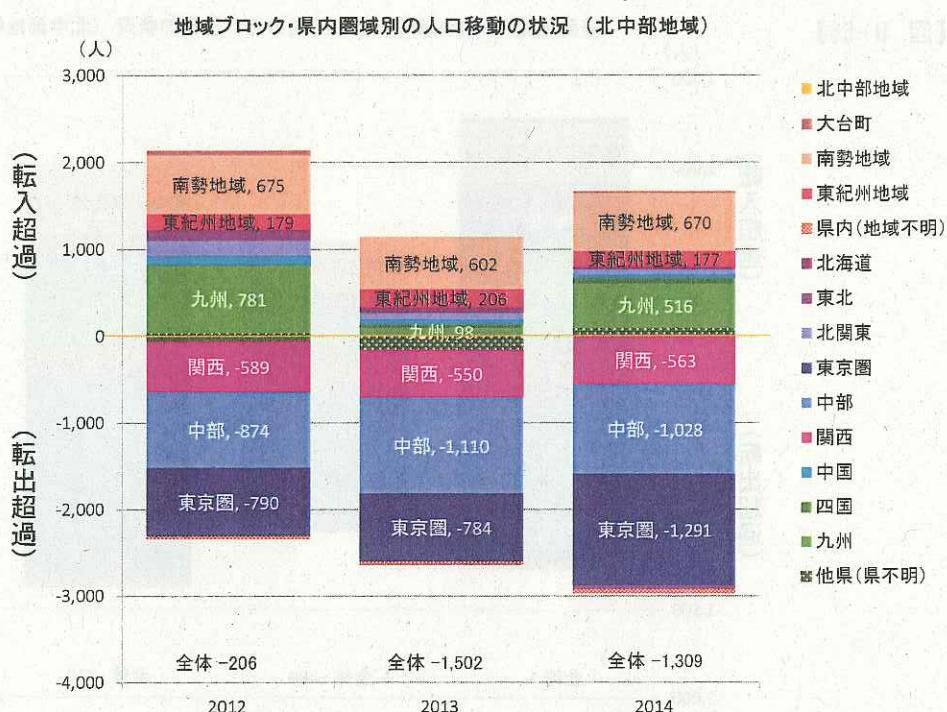


※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

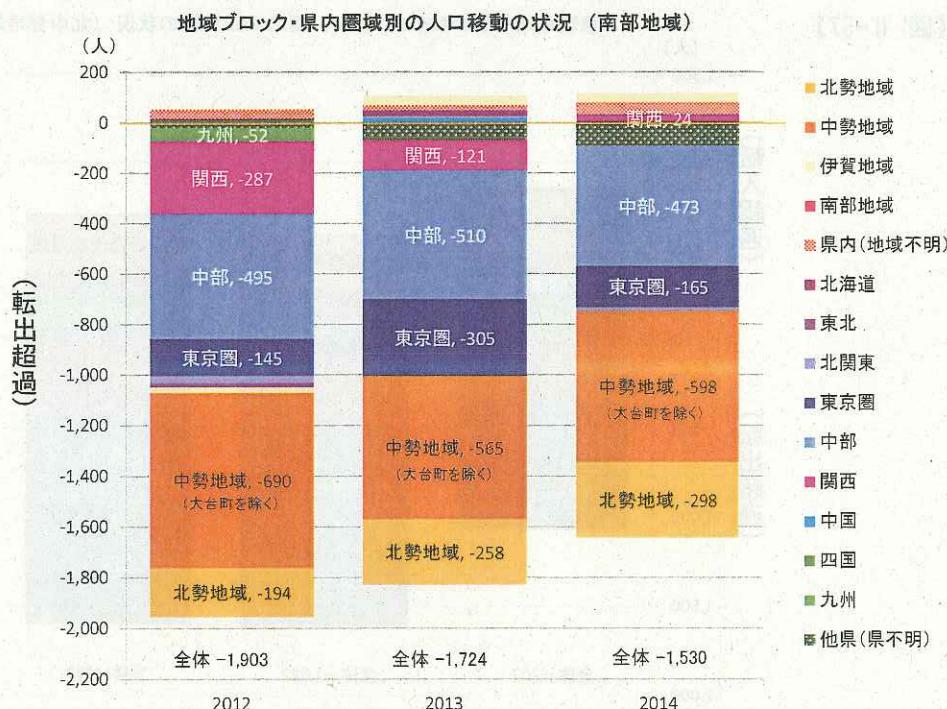
- 男女ともに、東京圏、中部圏、関西圏に対して転出超過となっている。また、東京圏に対して2011から2014年にかけて転出超過が大きくなっている。
- 女性は、男性に比べ、全地域ブロック合計の転出超過が大きくなっている。

- 北中部地域及び南部地域における2012年から2014年の人口移動について、地域ブロック別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 II-54】



【図 II-55】

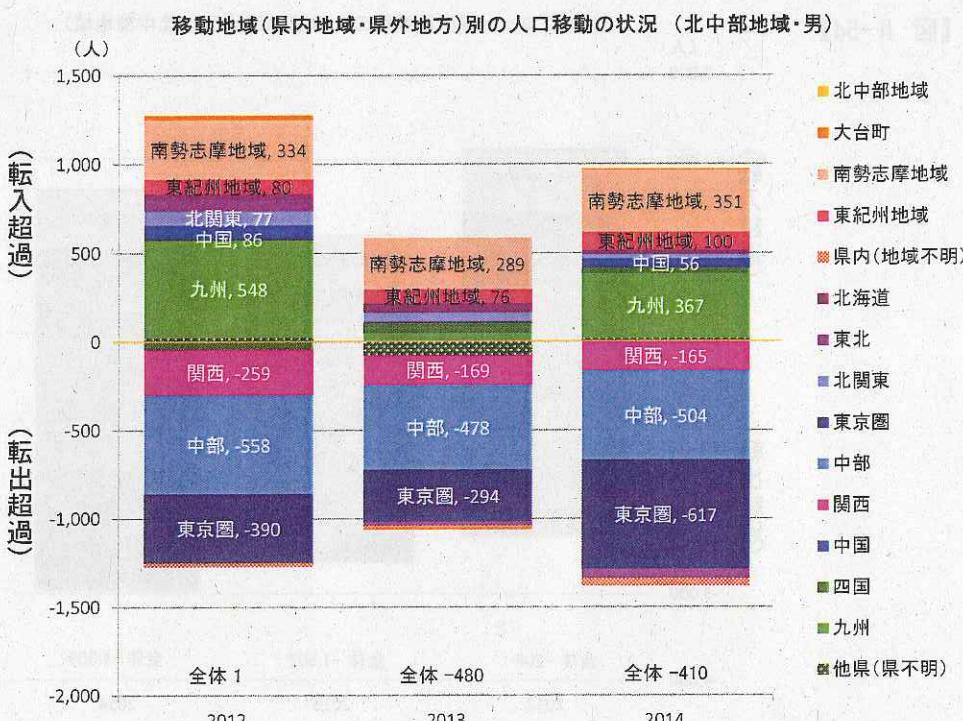


※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

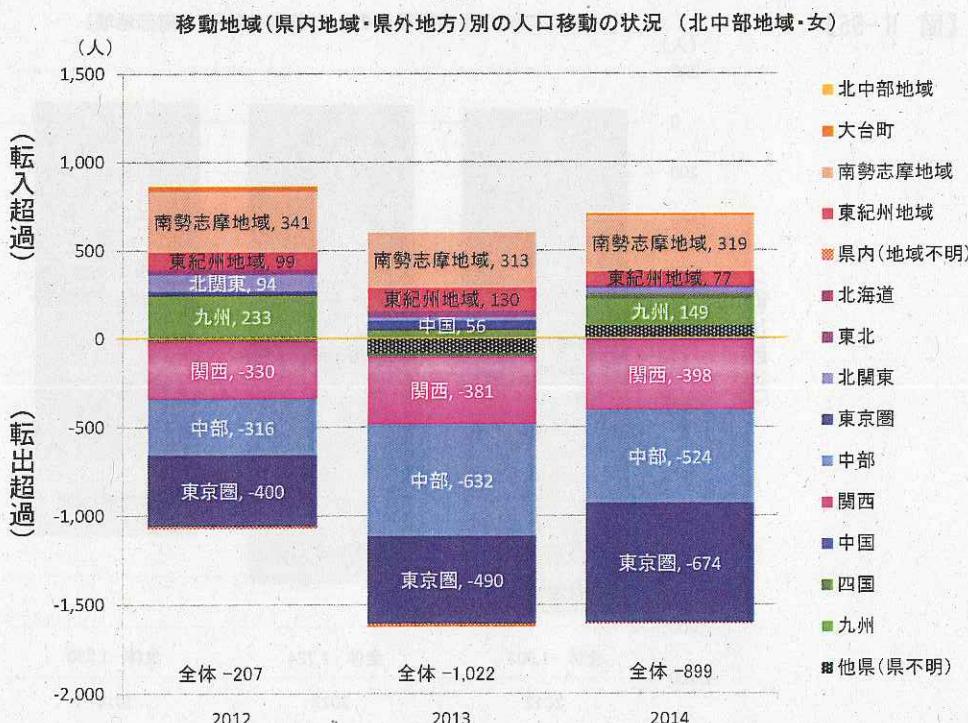
- 北中部地域では、東京圏、中部圏、関西圏に対して転出超過となっている。また、東京圏への転出超過数が増加傾向にある。
- 南部地域では、東京圏等への大都市圏と北中部地域に対して転出超過となっている。

- 北中部地域における2012年から2014年の人口移動について、性別・地域ブロック別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 II-56】



【図 II-57】

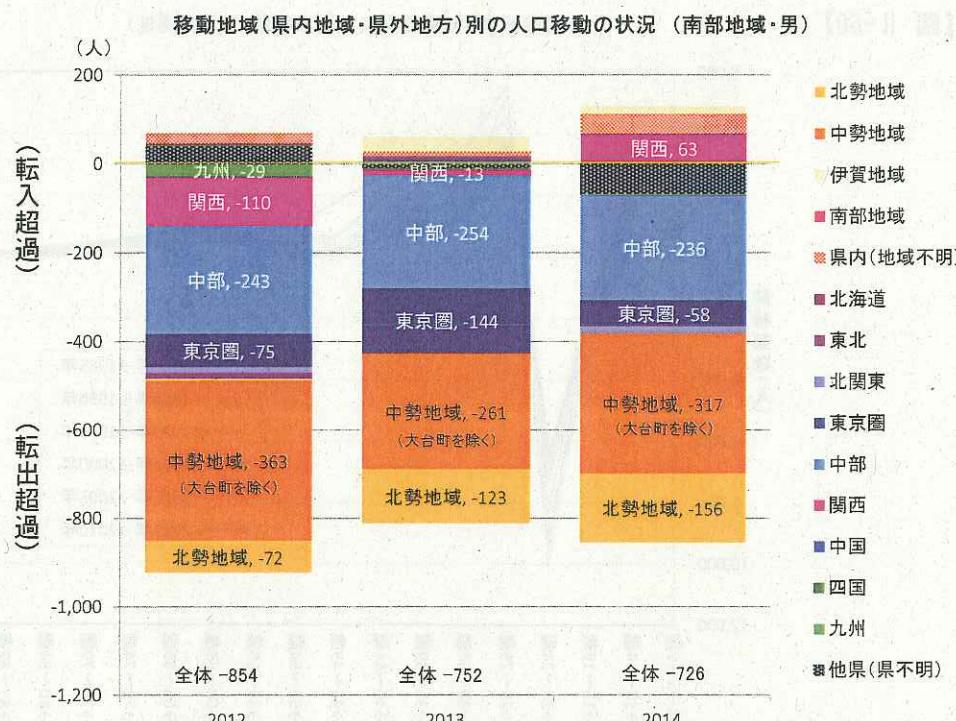


※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

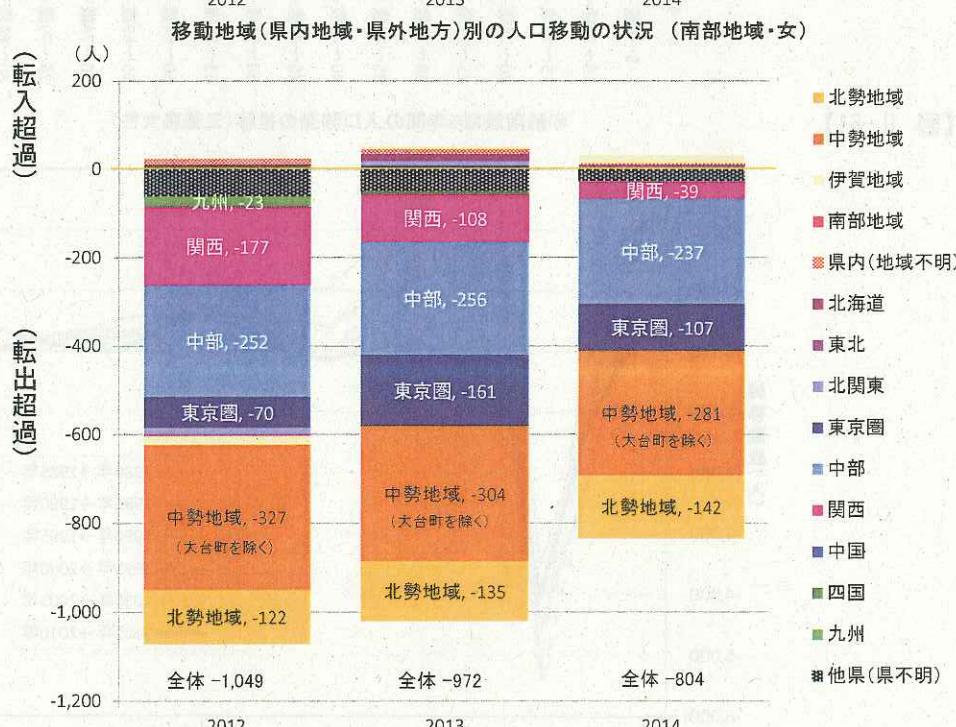
- 全県と同様、男女ともに、東京圏、中部圏、関西圏に対して転出超過となっている。
- 女性は、男性に比べ、全地域ブロック合計の転出超過が大きくなっている。

- 南部地域における2012年から2014年の人口移動について、性別・地域ブロック別に見たのが次のグラフです。原点(0)から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 II-58】



【図 II-59】



※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

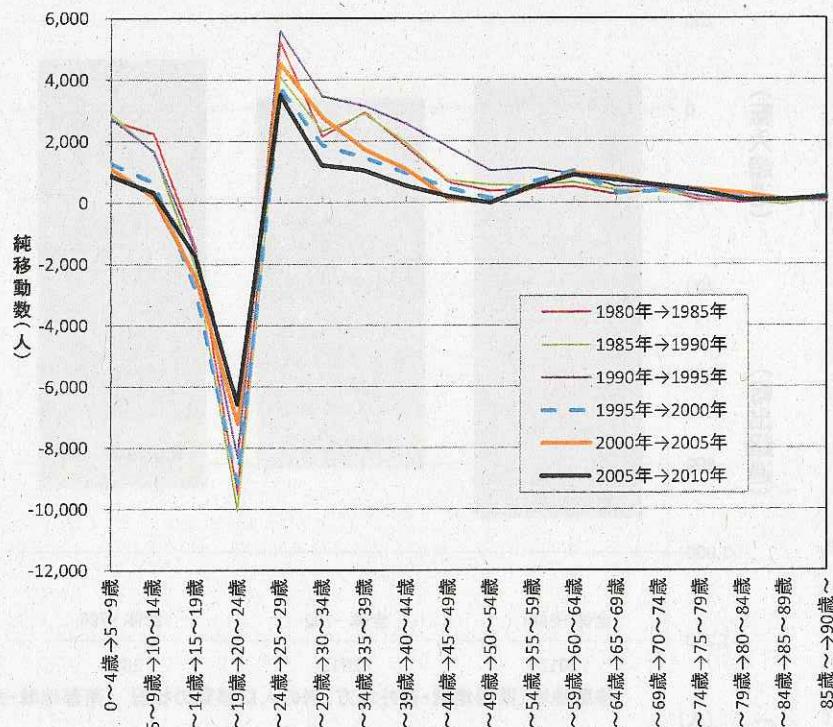
- 男女ともに、東京圏等への大都市圏と北中部地域に対して転出超過となっている。
- 女性は、男性に比べ、全地域ブロック合計の転出超過が大きくなっている。

(5) 性別・年齢階級別に見た5年間の人口移動状況の長期的動向

- 1980年→1985年から最近年までの性別・年齢階級別に見た三重県の推移は次のグラフのとおりとなっています。

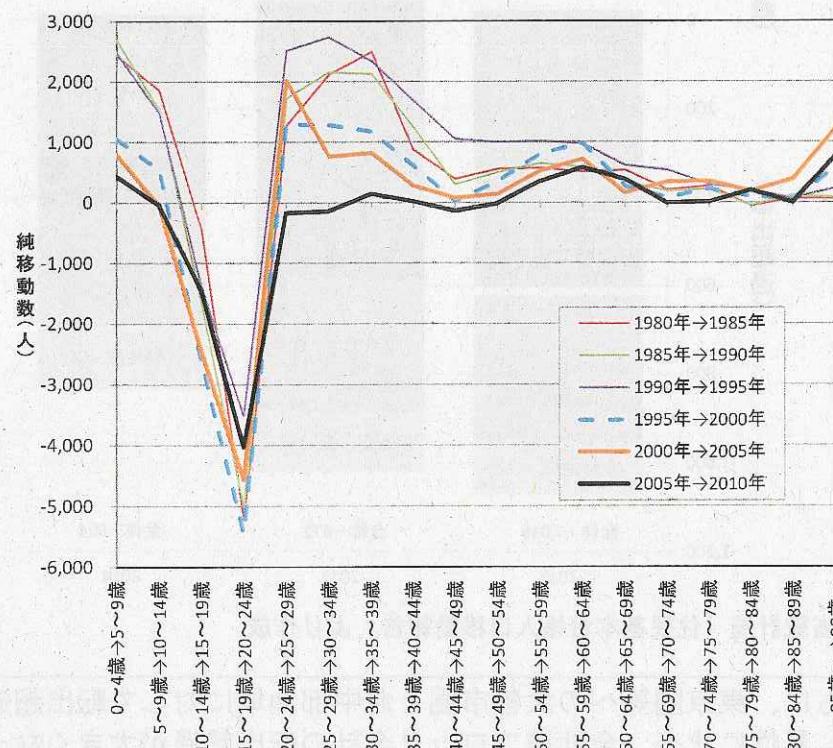
【図 II-60】

年齢階級別5年間の人口移動の推移(三重県男性)



【図 II-61】

年齢階級別5年間の人口移動の推移(三重県女性)



※総務省「国勢調査」データに基づく総務省による推計値

○ 上のグラフでは、20～24歳→25～29歳女性の純移動が、それまで大幅なプラスであったものが2005年→2010年にマイナスとなっています。その原因を分析するためには、25～29歳女性について国籍別に5年前の値と比較したのが次の表です。

【表 II-4】

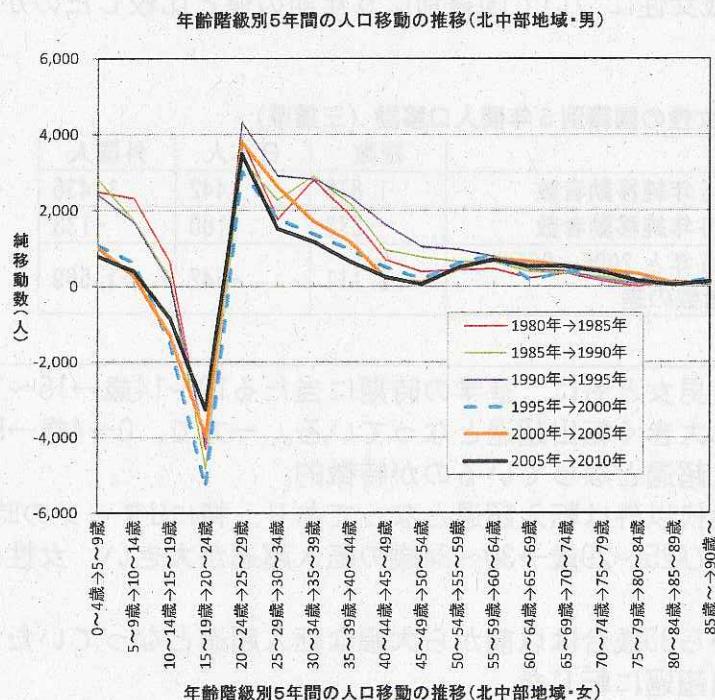
25～29歳女性の国籍別5年間人口移動（三重県）

	総数	日本人	外国人
2000→2005年純移動者数	1,878	442	1,436
2005→2010年純移動者数	-233	-100	-133
2000→2005年と2005→2010年の純移動者数の差	-2,111	-542	-1,569

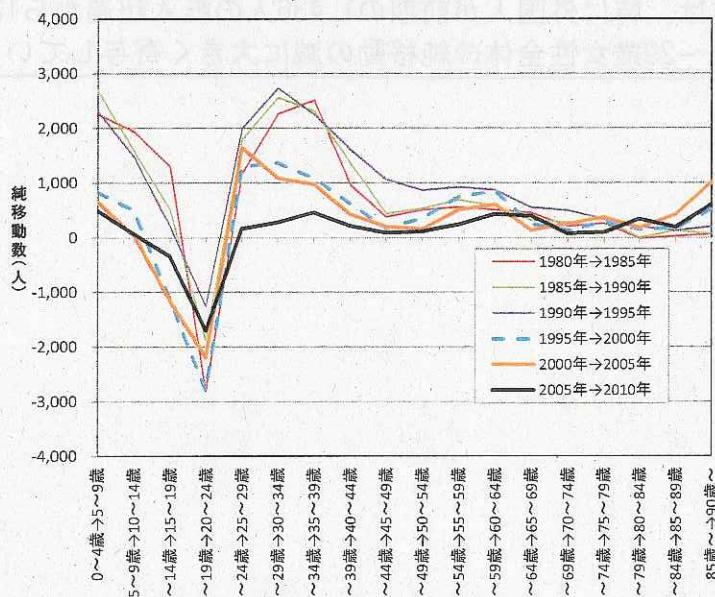
- 三重県では、男女ともに、進学の時期に当たる10～14歳→15～19歳、及び15～19歳→20～24歳に大きく転出超過となっている。一方で、0～4歳→5～9歳、及び50歳～60歳台が転入超過となっているのが特徴的。
- 男性は進学世代以外は転入超過となっており、特にUターンの時期である20～24歳→25～29歳、及び25～29歳→30～34歳の転入超過が大きい。女性は男性に比べて動きは小さい。
- 女性の20歳から30歳台は以前から大幅な転入超過となっていたが、2005→2010年にかけては転出超過に転じた。
- 2005→2010年は、特に外国人が前期の1,436人の転入超過から133人の転出超過に転じており、25～29歳女性全体の純移動の減に大きく寄与している。

- 1980年→1985年から最近年までの性別・年齢階級別に見た北中部地域の推移は次のグラフのとおりとなっています。

【図 II-62】



【図 II-63】



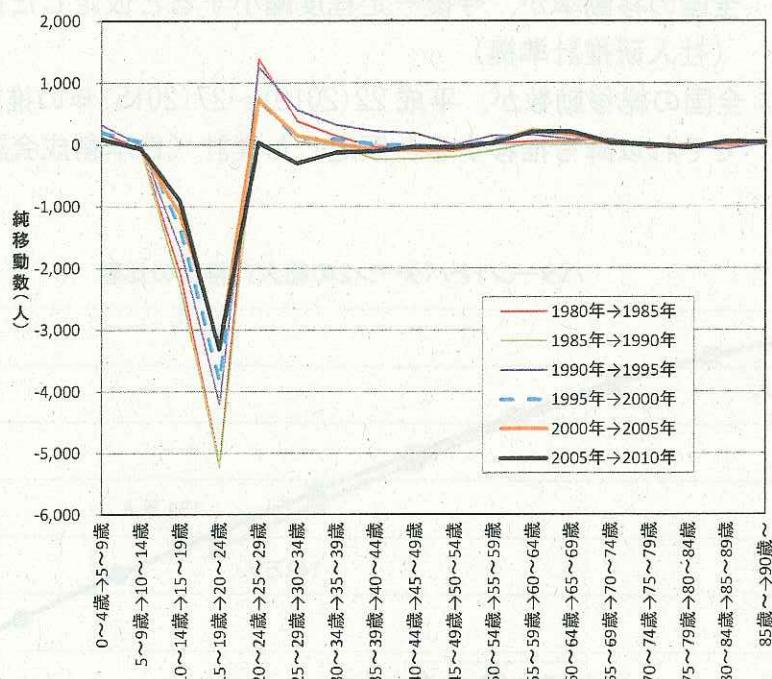
※総務省「国勢調査」データに基づく総務省による推計値

- 北中部地域では、男女ともに、進学の時期に当たる10~14歳→15~19歳、及び15~19歳→20~24歳に大きく転出超過となっている。一方で、0~4歳→5~9歳、及び50歳~60歳台が転入超過となっているのが特徴的。
- 男性は進学世代以外は転入超過となっており、特にUターンの時期である20~24歳→25~29歳、及び25~29歳→30~34歳の転入超過が大きい。女性は男性に比べて動きは小さい。
- 女性の20歳から30歳台は以前から大幅な転入超過となっていたが、2005→2010年にかけては転入超過が大きく減少した。

- 1980年→1985年から最近年までの性別・年齢階級別に見た南部地域の推移は次のグラフのとおりとなっています。

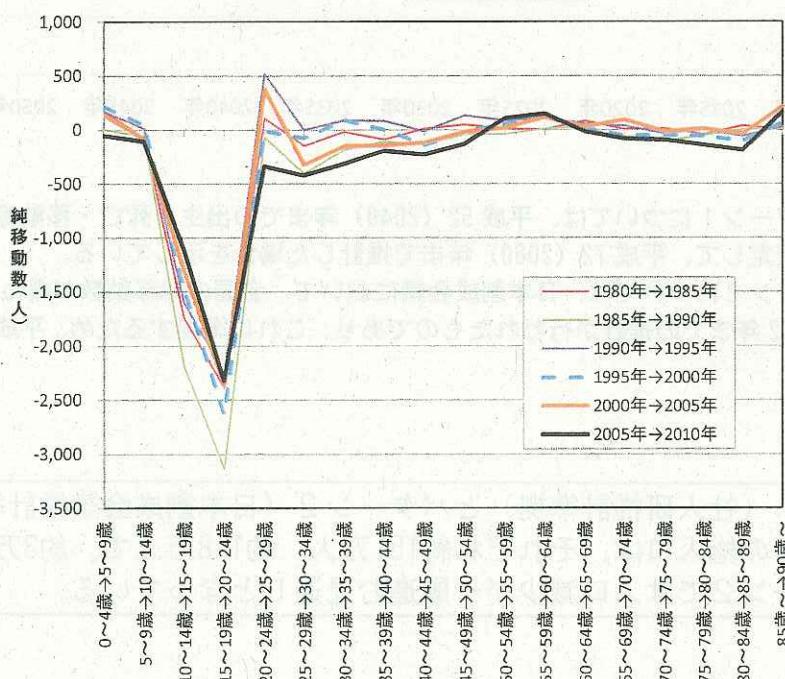
【図 II-64】

年齢階級別5年間の人口移動の推移(南部地域・男)



【図 II-65】

年齢階級別5年間の人口移動の推移(南部地域・女)



※総務省「国勢調査」データに基づく総務省による推計値

- 南部地域では、男女ともに、進学の時期に当たる10~14歳→15~19歳、及び15~19歳→20~24歳に大きく転出超過となっている。
- 北中部地域と違い、20~24歳→25~29歳、及び25~29歳→30~34歳でも、2005年→2010年は概ね転出超過となっている。

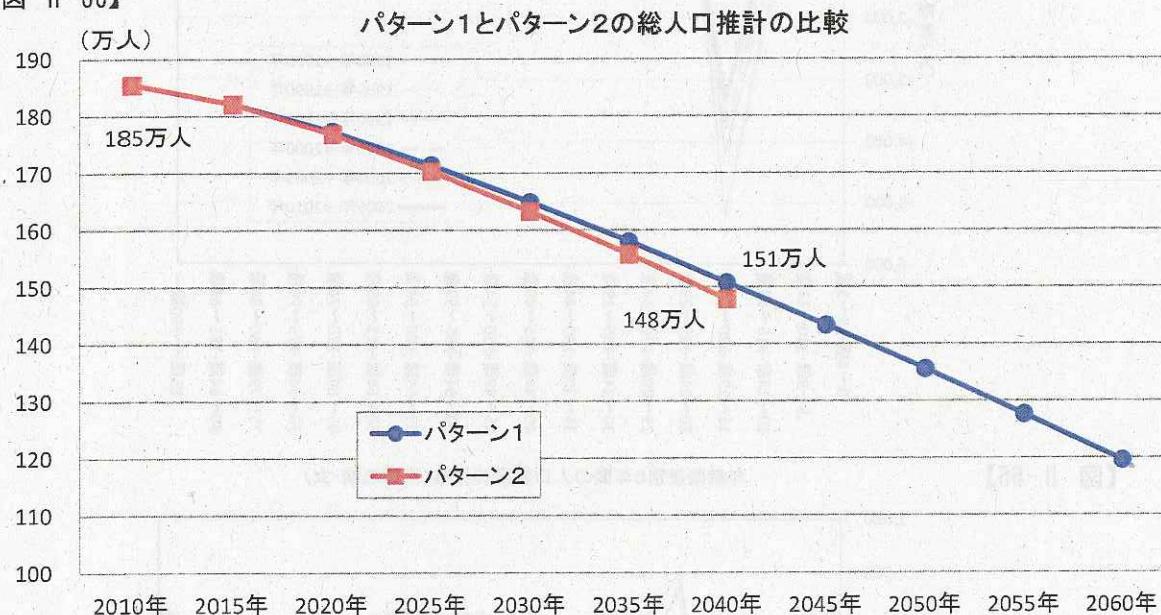
4 三重県の将来人口

(1) 三重県の将来人口推計

パターン1：全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計
(社人研推計準拠)

パターン2：全国の総移動数が、平成22(2010)～27(2015)年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計（日本創成会議推計準拠）

【図 II-66】



(注) パターン1については、平成52(2040)年までの出生・死亡・移動等の傾向がその後も継続すると仮定して、平成72(2060)年まで推計した場合を示している。

パターン2については、日本創成会議において、全国の総移動数が概ね一定水準との仮定の下で平成52年までの推計が行われたものであり、これに準拠するため、平成52年までの表示をしている。

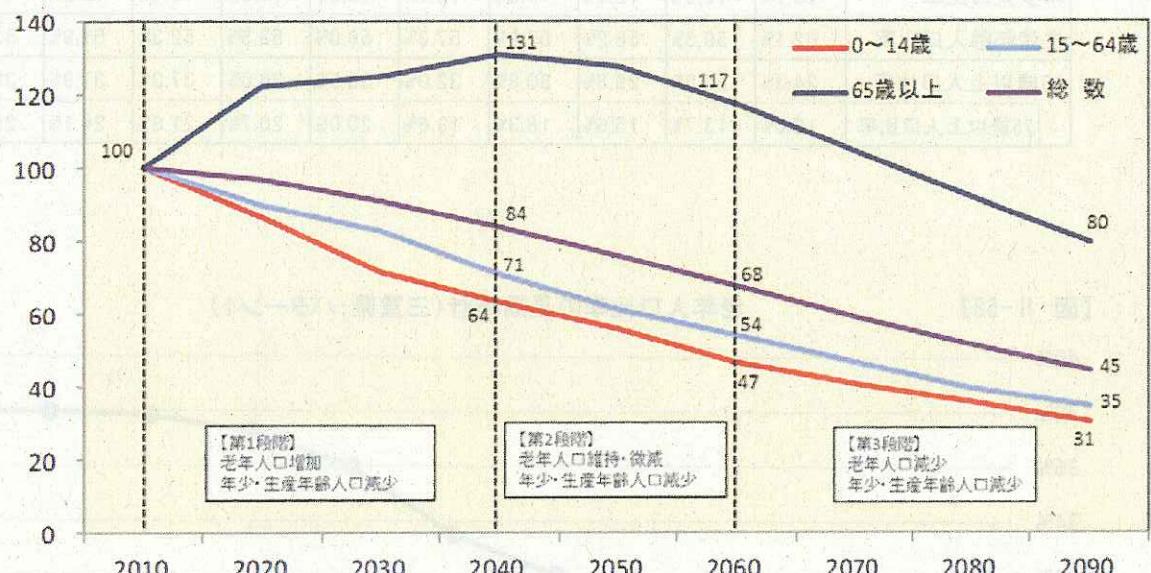
- パターン1（社人研推計準拠）とパターン2（日本創成会議推計準拠）による平成52(2040)年の総人口は、それぞれ約151万人、約148万人で、約3万人の差が生じております。パターン2では人口減少が一層進む見通しとなっている。

(2) 人口減少段階の分析

- 「人口減少段階」は、一般的に、「第1段階：老人人口の増加（総人口の減少）」「第2段階：老人人口の維持・微減」「第3段階：老人人口の減少」の3つの段階を経て進行するとされています。

【図 II-67】

人口の減少段階（全国）



(備考)
1. 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」より作成
2. 2010年の人口を100とし、各年の人口を指標化した。

【表 II-5】

三重県の「人口減少段階」

単位:千人

	H22 (2010)年	H52 (2040)年	H22年を100とした場合の H52年の指数	人口減少段階
老人人口	450	542	120	
生産年齢人口	1151	807	70	1
年少人口	253	158	62	

【表 II-6】

都道府県別人口減少段階

人口減少段階の区分	都道府県名
第1段階 (44都道府県)	北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山县、鳥取県、岡山县、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
第2段階 (3県)	秋田県、島根県、高知県

- 都道府県単位では、三重県を含めた44都道府県が「第1段階」に該当している。

(3) 老年人口比率の変化

- パターン1により、2060年までの老年人口比率の推移を見たのが次の図表です。

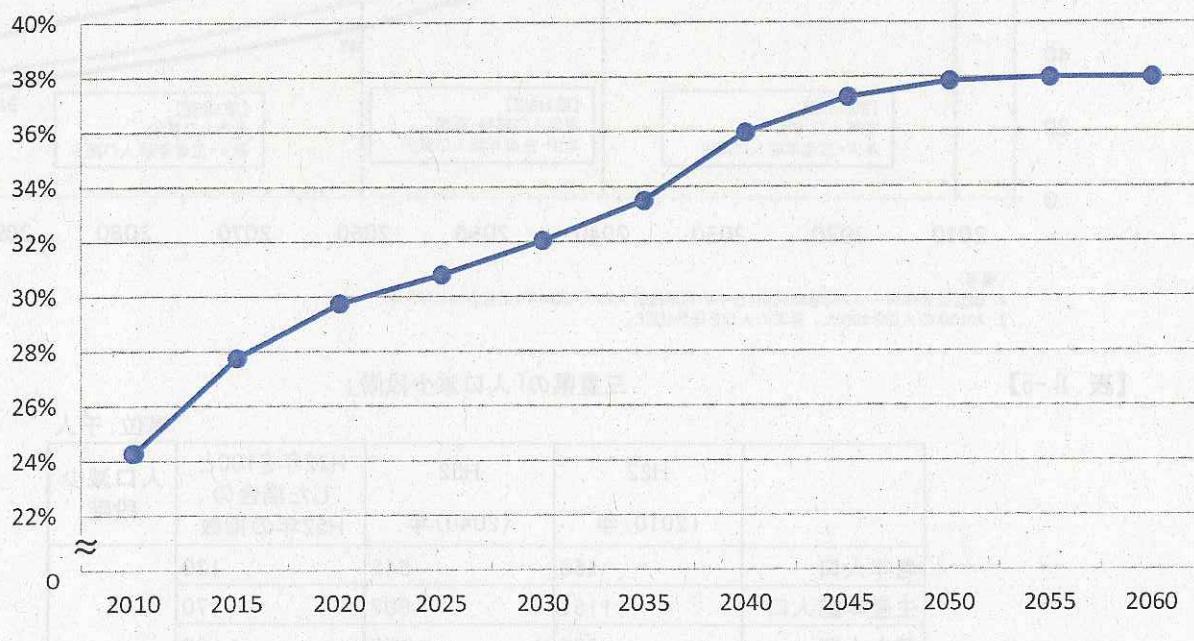
【表 II-7】 平成22(2010)年から平成52(2040)年までの総人口・年齢3区分別人口比率

(三重県:パターン1)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口(万人)	185.5	182.1	177.3	171.4	164.9	158.0	150.8	143.3	135.6	127.7	119.6
年少人口比率	13.7%	12.9%	12.1%	11.3%	10.7%	10.5%	10.5%	10.4%	10.2%	10.0%	9.7%
生産年齢人口比率	62.1%	59.3%	58.2%	57.9%	57.3%	56.0%	53.5%	52.3%	51.9%	52.1%	52.3%
65歳以上人口比率	24.3%	27.8%	29.8%	30.8%	32.0%	33.5%	36.0%	37.3%	37.9%	38.0%	38.0%
75歳以上人口比率	12.0%	13.7%	15.6%	18.3%	19.6%	20.0%	20.7%	21.8%	24.1%	25.0%	25.0%

【図 II-68】

老年人口比率の長期推計(三重県:パターン1)



- パターン1では、2040年を超えても老年人口比率は上昇を続ける。

5 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

シミュレーション1：仮に、パターン1（社人研推計準拠）において、合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準（2.1）まで上昇すると仮定した場合のシミュレーション

シミュレーション2：仮に、パターン1（社人研推計準拠）において、合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準（2.1）まで上昇し、かつ移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定した場合（転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合）のシミュレーション

※シミュレーション1は、人口移動に関する仮定をパターン1（社人研推計準拠）と同じとして、出生に関する仮定のみを変えているものであり、シミュレーション1による2040年の総人口を、パターン1（社人研推計準拠）による2040年の総人口で除して得られる数値は、仮に出生率が人口置換水準まで上昇したとした場合に30年後の人口がどの程度増加したものになるかを表しており、その値が大きいほど、出生の影響度が大きい（現在の出生率が低い）ことを意味する。

※シミュレーション2は、出生の仮定をシミュレーション1と同じとして、人口移動に関する仮定のみを変えているものであり、シミュレーション2による2040年の総人口をシミュレーション1による2040年の総人口で除して得られる数値は、仮に人口移動が均衡（移動がない場合と同じ）となったとした場合に30年後の人口がどの程度増加（又は減少）したものとなるかを表しており、その値が大きいほど、人口移動の影響度が大きい（現在の転出超過が大きい）ことを意味する。

※以上を踏まえ、自然増減の影響度及び社会増減の影響度については、国から、全国の市町村別の分析結果を踏まえ、5段階評価（下表参照）の基礎となるデータが示されている。

（出典）「地域人口減少白書（2014年－2018年）」

（一般社団法人北海道総合研究調査会、2014年生産性出版）

「自然増減の影響度」

[シミュレーション1の2040年の総人口／パターン1の2040年の総人口] の数値に応じて、以下の5段階に整理。

「1」=100%未満^{注1)}、「2」=100～105%、「3」=105～110%、「4」=110～115%、「5」=115%以上の増加

（注1）：「1」=100%未満には、「パターン1（社人研推計準拠）」の将来の合計特殊出生率に換算した仮定値が、本推計で設定した「平成42(2030)年までに2.1」を上回っている市町村が該当する。

「社会増減の影響度」

[シミュレーション2の2040年の総人口／シミュレーション1の2040年の総人口] の数値に応じて、以下の5段階に整理。

「1」=100%未満^{注2)}、「2」=100～110%、「3」=110～120%、「4」=120～130%、「5」=130%以上の増加

（注2）：「1」=100%未満には、「パターン1（社人研推計準拠）」の将来の純移動率の仮定値が転入超過基調となっている市町村が該当する。

- シミュレーション1、2から、当該地方公共団体について、自然増減影響度が高いほど出生率を上昇させる施策に、また、社会増減影響度が高いほど人口の社会増をもたらす施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑える上でより効果的であるとされます。
- 三重県においては、下表のとおり多くの都道府県と同様、自然増減影響度は「3」、社会増減影響度は「2」となっています。

【表 II-8】

自然増減、社会増減の影響度(三重県)

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション1 の 2040 年推計人口=1, 609, 027(人) パターン1 の 2040 年推計人口 =1, 507, 646(人) ⇒ 1,609,027(人)/1, 507, 646(人)=106. 7%	3
社会増減の影響度	シミュレーション2 の 2040 年推計人口=1, 640, 846(人) シミュレーション1 の 2040 年推計人口=1, 609, 027(人) ⇒ 1,640,846(人)/1, 609, 027(人)=102. 0%	2

【表 II-9】

将来人口における自然増減の影響度、社会増減の影響度
(全国:都道府県名表示)

全国

		自然増減の影響度(2040)						総計
		1	2	3	4	5		
社会増減の影響	1	0	1	9	1	0	11	
	2	0	1	30	1	0	32	
	3	0	4	0	0	0	4	8.5%
	4	0	0	0	0	0	0	0.0%
	5	0	0	0	0	0	0	0.0%
総計		0	2	43	2	0	47	100.0%
		0.00%	4.30%	91.50%	4.30%	0.00%		

- 三重県は、多くの県と同様、自然増減の影響度が「3」、社会増減の影響度が「2」となっている。

6 人口減少及び人口構成の変化がもたらす課題

- 経済の供給面では、生産年齢人口の減少に伴う、労働や地域活動の担い手不足による人材獲得の地域間競争の拡大や供給制約からの経済の低迷などが懸念されます。
また、労働力不足により、建設業では社会資本の整備・維持管理、その品質確保や、災害対応等に通じた地域の維持等に支障が生じる恐れがあり、農業においては耕作放棄地が増大し、林業においては荒廃森林が拡大していくことが懸念されます。
- 需要面では、人口減少そのものを原因とする国内消費の低迷により、内需産業の縮小とそれに伴う雇用の減少が懸念されます。
- 総人口に占める従属年齢人口割合の増加により、年金、医療、介護、福祉などの社会保障関係費が増加し、住民負担及び行政負担が増加することが懸念されます。他方で、生産年齢人口の減少により、住民税等の収入減少が懸念されます。
さらにこのことから、人口減少対策をはじめとする様々な政策課題への対策のための財源捻出が困難になるとともに、施設の維持管理費、補修費の行政負担が重荷となり、公共インフラをはじめとする社会資本の維持も困難になることが懸念されます。
- 人口の流出や高齢化等による都市や集落の機能低下などが懸念されます。
例えば、中山間地域や小規模市町において、人口減少等により商圏が縮小し、スーパーマーケットやガソリンスタンド等が撤退し生活に不便を感じている住民が増加することが懸念されます。また、都市部において、モータリゼーションの普及とともに郊外型大規模ショッピングセンターが出店し、住宅街におけるスーパーマーケットが撤退する一方で、高齢化が進み、自家用車を運転しない高齢者が増加し、いわゆる「買い物難民」が増加することが懸念されます。
さらに、中山間・過疎地域等では、子どもの数の減少により、小中高校の統合が進み、統合が更なる人口減少につながることが懸念されます。

III 三重県における人口の将来展望

1 めざすべき人口の将来展望

IIの5の分析により、本県においては、自然増減と社会増減の影響度に大きな差はなかったため、自然減対策と社会減対策をバランスよく実施する必要がありますが、この章では、これら自然減対策と社会減対策を講じた場合、人口減少をどの程度抑制することができるのかをシミュレートし、めざすべき人口の将来展望を提示します。

また、北中部地域と比較し、人口減少率の大きい南部地域については、これまでの県の南部地域活性化の取組を踏まえた対応が必要であることから、取組の前提となる南部地域の将来展望（南部地域の人口ビジョン）を示します。

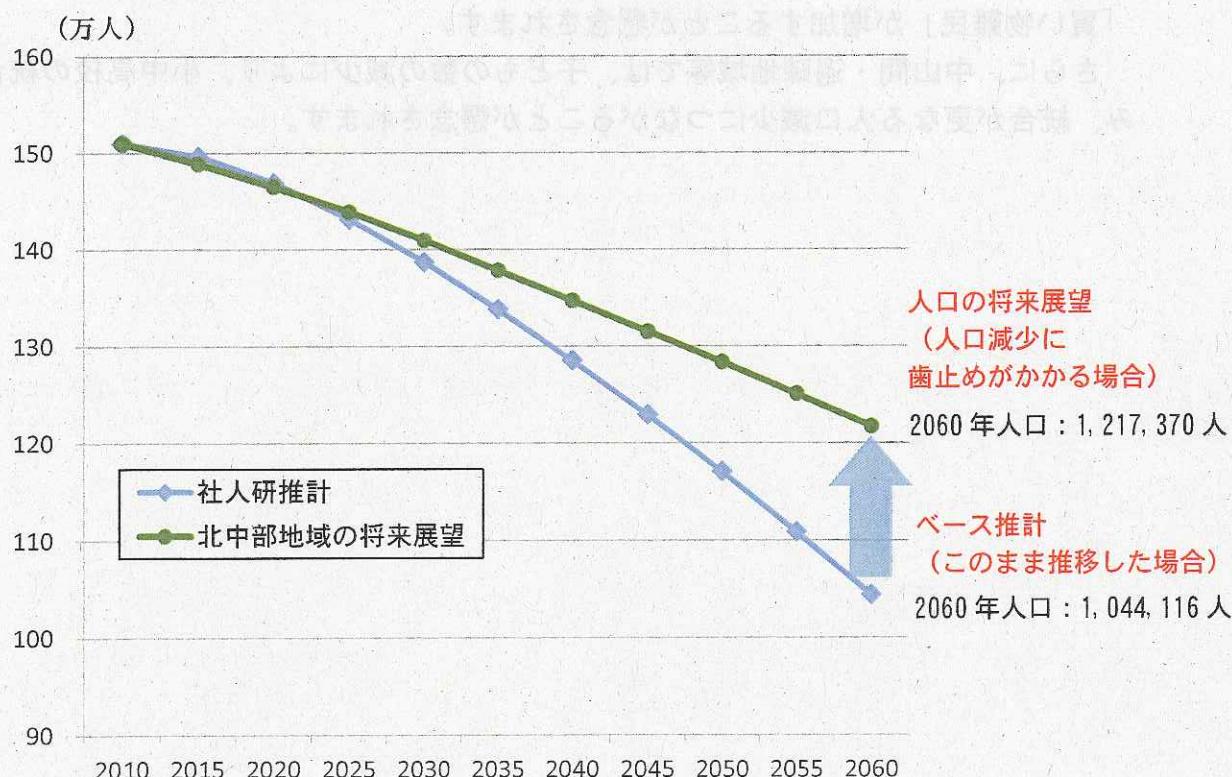
なお、県全体の将来展望は、北中部地域と南部地域の合計で示されることから、南部地域と合わせ、北中部地域の将来展望も示した上で、県全体の将来展望を示すこととします。

(1) 人口の展望

① 北中部地域の人口の展望

図III-1に示す推計によると、このまま推移した場合、北中部地域の人口は大きく減少し、2060年には約104万人まで落ち込みます。一方、自然減対策と社会減対策を講じ、合計特殊出生率や転出超過数が改善された場合、2060年には約122万人^(※)を確保できることが見込まれます。

【図 III-1】 北中部地域の将来人口のベース推計と将来展望



※ 人口の将来展望を示すためには、「合計特殊出生率」と「転出超過数」を設定する必要がある。

北中部地域の「希望出生率」は、全県と同じ1.8台であることから、北中部地域の「合計特殊出生率」については、2025年までは、概ね10年後までを目途に希望出生率である1.8台に引き上げる「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」の目標に合わせ、2026年以降は、2040年までに人口置換水準である約2.1に引き上げ、その後安定化させる国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」に合わせることとする。

北中部地域の「転出超過数」については、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、次のとおり設定する。

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、東京圏への一極集中を是正するために、地方の雇用を毎年度2万人ずつ段階的に創出し、2020年以降は毎年10万人の若い世代の安定した雇用を生み出す力を持った地域産業の競争力強化に取り組むこととしている。

北中部地域においては、東京圏の転出入の約1%を占めることから、毎年度約200人ずつ段階的に雇用を創出し、現在1,400人の転出超過数を概ね2022年（7年後）までに0にする（転出入を均衡させる）。

【表 III-1】

【北中部地域の人口の将来展望における設定値】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合計特殊出生率	1.5	1.65	1.8	1.9	2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
転入超過数(1年)	-1,400	-400	0	0	0	0	0	0	0	0

(注1) ベース推計は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」による。2040～2060年は、2040年までの仮定等を基に、三重県戦略企画部において機械的に延長したものである。

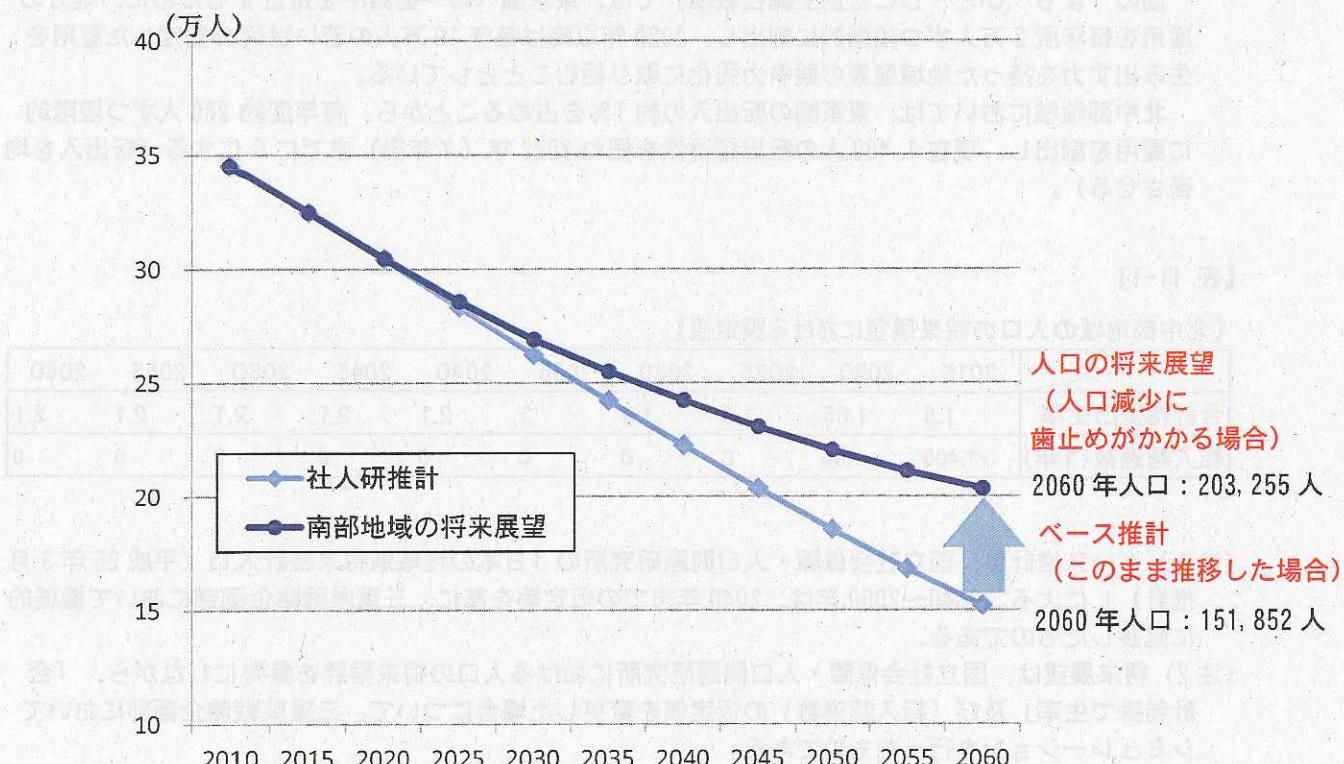
(注2) 将来展望は、国立社会保障・人口問題研究所における人口の将来推計を参考にしながら、「合計特殊出生率」及び「転入超過数」の仮定値を変更した場合について、三重県戦略企画部においてシミュレーションを行ったものである。

0015	0020	0025	0030	0035	0040	0045	0050	0055	0060	0065	0070	0075	0080	0085	0090	0095	0100	0105	0110	0115	0120	0125	0130	0135	0140	0145	0150	0155	0160	0165	0170	0175	0180	0185	0190	0195	0200	0205	0210	0215	0220	0225	0230	0235	0240	0245	0250	0255	0260	0265	0270	0275	0280	0285	0290	0295	0300	0305	0310	0315	0320	0325	0330	0335	0340	0345	0350	0355	0360	0365	0370	0375	0380	0385	0390	0395	0400	0405	0410	0415	0420	0425	0430	0435	0440	0445	0450	0455	0460	0465	0470	0475	0480	0485	0490	0495	0500	0505	0510	0515	0520	0525	0530	0535	0540	0545	0550	0555	0560	0565	0570	0575	0580	0585	0590	0595	0600	0605	0610	0615	0620	0625	0630	0635	0640	0645	0650	0655	0660	0665	0670	0675	0680	0685	0690	0695	0700	0705	0710	0715	0720	0725	0730	0735	0740	0745	0750	0755	0760	0765	0770	0775	0780	0785	0790	0795	0800	0805	0810	0815	0820	0825	0830	0835	0840	0845	0850	0855	0860	0865	0870	0875	0880	0885	0890	0895	0900	0905	0910	0915	0920	0925	0930	0935	0940	0945	0950	0955	0960	0965	0970	0975	0980	0985	0990	0995	0999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459	1460	1461	1462	1463	1464	1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471	1472	1473	1474	1475	1476	1477	1478	1479	1480	1481	1482	1483	1484	1485	1486	1487	1488	1489	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501	1502	1503	1504	1505	1506	1507	1508	1509	1510	1511	1512	1513	1514	1515	1516	1517	1518	1519	1520	1521	1522	1523	1524	1525	1526	1527	1528	1529	1530	1531	1532	1533	1534	1535	1536	1537	1538	1539	1540	1541	1542	1543	1544	1545	1546	1547	1548	1549	1550	1551	1552	1553	1554	1555	1556	1557	1558	1559	1560	1561	1562	1563	1564	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574	1575	1576	1577	1578	1579	1580	1581	1582	1583	1584	1585	1586	1587	1588	1589	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830	1831	1832	1833	1834	1835	1836	1837	1838	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853	1854

② 南部地域の人口の展望

図III-2に示す推計によると、このまま推移した場合、南部地域の人口は大きく減少し、2060年には約15万人まで落ち込みます。一方、自然減対策と社会減対策を講じ、合計特殊出生率や転出超過数が改善された場合、2060年には約20万人^(※)を確保できることが見込まれます。

【図 III-2】 南部地域の将来人口のベース推計と将来展望



※ 南部地域の「希望出生率」は、全県と同じ1.8台であることから、南部地域の「合計特殊出生率」については、2025年までは、概ね10年後までを目途に希望出生率である1.8台に引き上げる「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」の目標に合わせ、2026年以降は、2040年までに人口置換水準である約2.1に引き上げ、その後安定化させる国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」に合わせることとする。

南部地域の「転入超過数」については、北中部地域の設定を踏まえ、次のとおり設定する。

現在の北中部地域と南部地域の人口は、それぞれ約150万人と約30万人であるから、南部地域は北中部地域の1/5の人口になる。このことから、北中部地域と同様に雇用を創出した場合、北中部地域における転入超過数の年間改善数200人の1/5にあたる40人ずつを改善することとなる。

南部地域は、これまでの活性化に係る取組結果を踏まえ、雇用の創出に加え、13市町と連携したUターンをより一層促進するなど、施策の充実を図ることにより、2倍の80人ずつ改善し、現在1,600人の転出超過数を2035年(20年後)までに0にする(転出入を均衡させる)。

【表 III-2】

【南部地域の人口の将来展望における設定値】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合計特殊出生率	1.5	1.65	1.8	1.9	2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
転入超過数(1年)	-1,600	-1,200	-800	-400	0	0	0	0	0	0

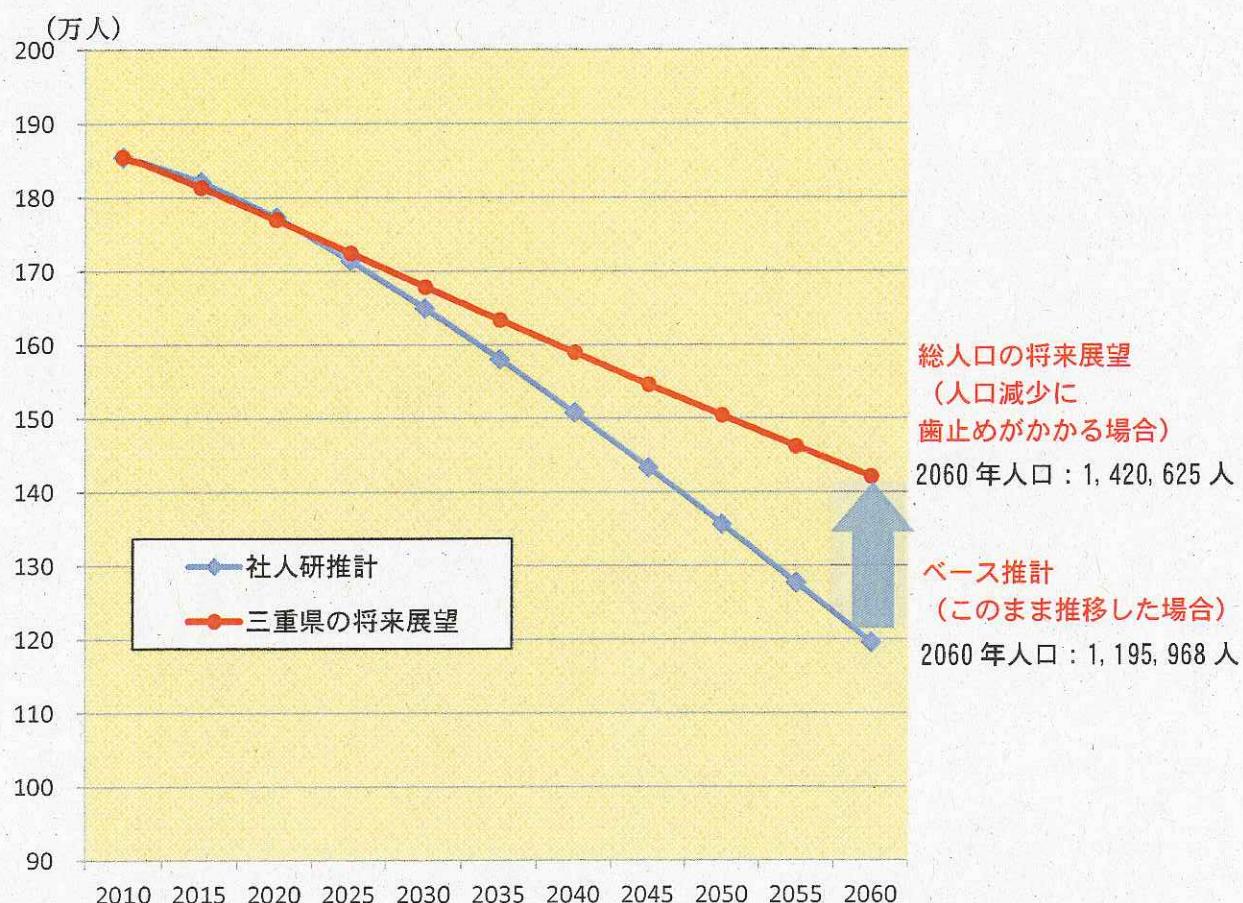
(注1) ベース推計は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」による。2040～2060年は、2040年までの仮定等を基に、三重県戦略企画部において機械的に延長したものである。

(注2) 将来展望は、国立社会保障・人口問題研究所における人口の将来推計を参考にしながら、「合計特殊出生率」とび「転入超過数」の仮定値を変更した場合について、三重県戦略企画部においてシミュレーションを行ったものである。

③ 三重県の人口の展望

北中部地域と南部地域を合計した図III-3に示す推計によると、このまま推移した場合、三重県の人口は大きく減少し、2060年には約120万人まで落ち込みます。一方、自然減対策と社会減対策を講じ、合計特殊出生率や転出超過数が改善された場合、2060年には約142万人^(※)を確保できることが見込まれます。

【図 III-3】 三重県の将来人口のベース推計と将来展望



※ 北中部地域と南部地域の人口の将来展望を合計し、2022年まで毎年度280人ずつ、2023年から2035年まで毎年度80人ずつ転出超過数を改善し、現在3,000人の転出超過数を2035年（20年後）までに0にする（転出入を均衡させる）。

【表 III-3】

【三重県の人口の将来展望における設定値】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合計特殊出生率	1.5	1.65	1.8	1.9	2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
転入超過数(1年)	-3,000	-1,600	-800	-400	0	0	0	0	0	0

(注) ベース推計は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」による。2040～2060年は、2040年までの仮定等を基に、三重県戦略企画部において機械的に延長したものである。

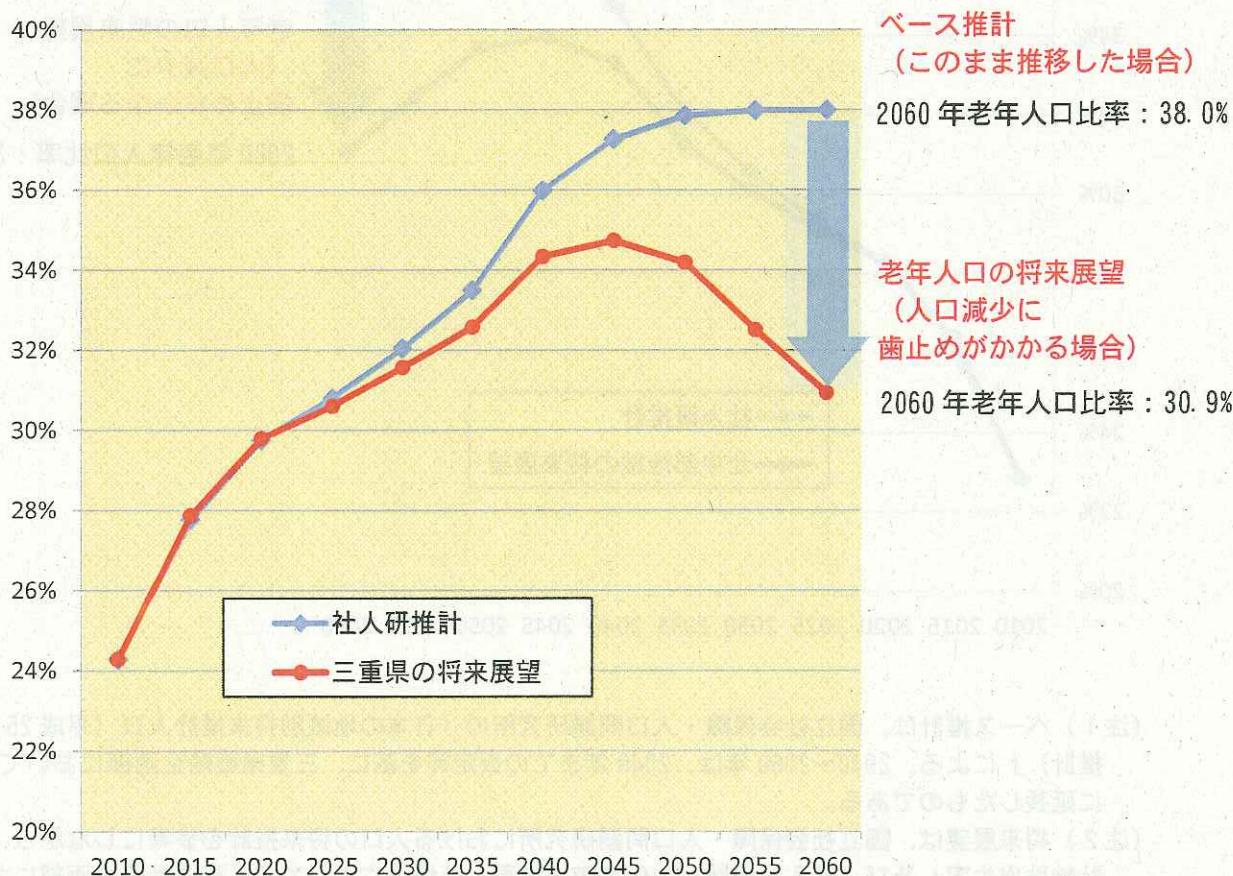
(2) 老年人口の展望

① 三重県の老年人口の展望

人口減少に歯止めがかかると、人口の規模及び構造が安定するだけでなく、老年人口比率が年々下がっていく「若返りの時期」を迎えます。将来的に高齢者が減少していく一方で、出生率が向上し、若年層を中心とした人口の流出に歯止めがかかった後は、高齢者に比べ、若い世代が相対的に多くなっていくからです。

図III-4に示す推計によると、老年人口比率は、2010年時点では約24%で、4.2人に1人が65歳以上の高齢者となっていますが、このまま推移した場合では、2055年頃に38%で高止まりし、2.6人に1人が65歳以上の高齢者になると見込まれています。これに対して、人口減少に歯止めをかける場合、老年人口比率は2045年頃に約35%でピークに達した後は低下し始めます。

【図 III-4】 三重県の将来老年人口比率のベース推計と将来展望



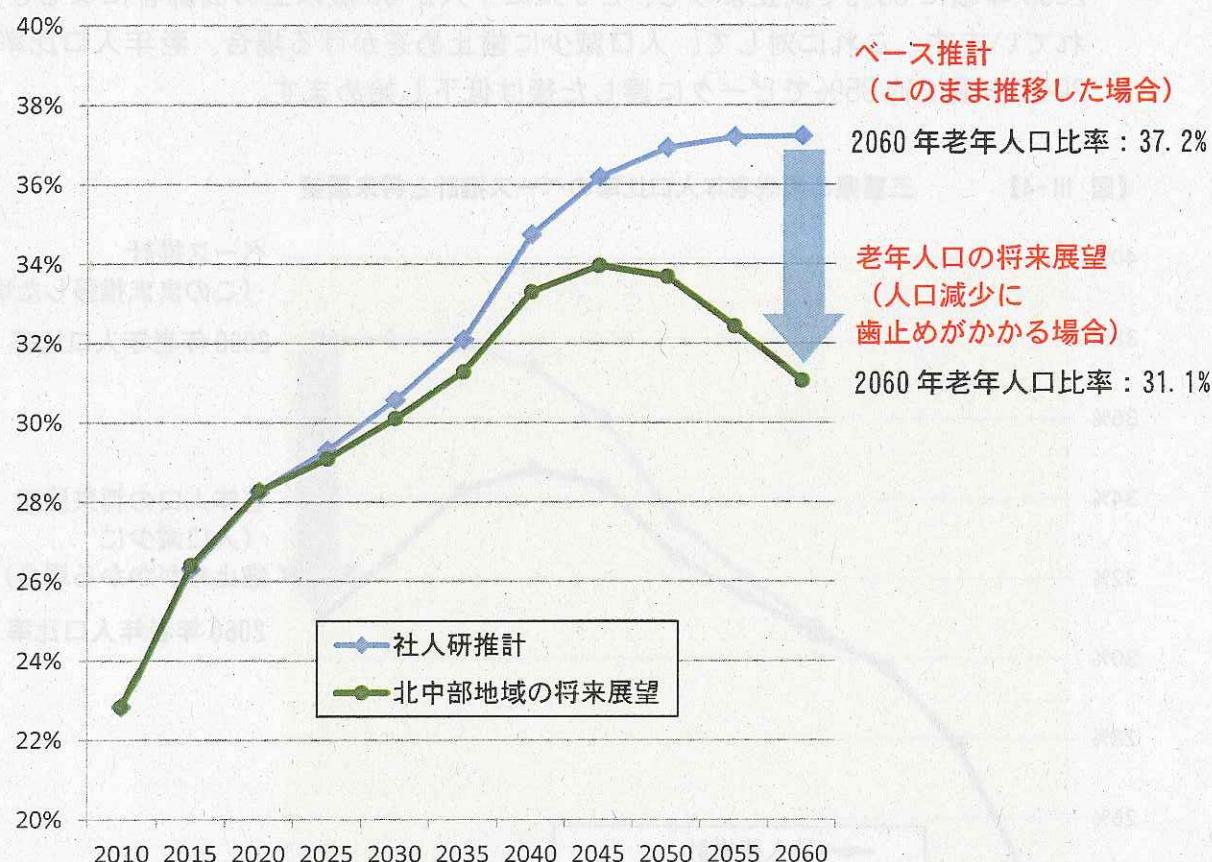
(注1) ベース推計は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」による。2040～2060年は、2040年までの仮定等を基に、三重県戦略企画部において機械的に延長したものである。

(注2) 将来展望は、国立社会保障・人口問題研究所における人口の将来推計を参考にしながら、「合計特殊出生率」と「転入超過数」の仮定値を変更した場合について、三重県戦略企画部においてシミュレーションを行ったものである。

② 北中部地域の老人人口の展望

図III-5に示す推計によると、老人人口比率は、2010年時点では約23%で、4.3人に1人が65歳以上の高齢者となっていますが、このまま推移した場合では、2055年頃に37%で高止まりし、2.7人に1人が65歳以上の高齢者になると見込まれています。これに対して、人口減少に歯止めをかける場合、老人人口比率は2045年頃に34%でピークに達した後は低下し始めます。

【図 III-5】 北中部地域の将来老人人口比率のベース推計と将来展望



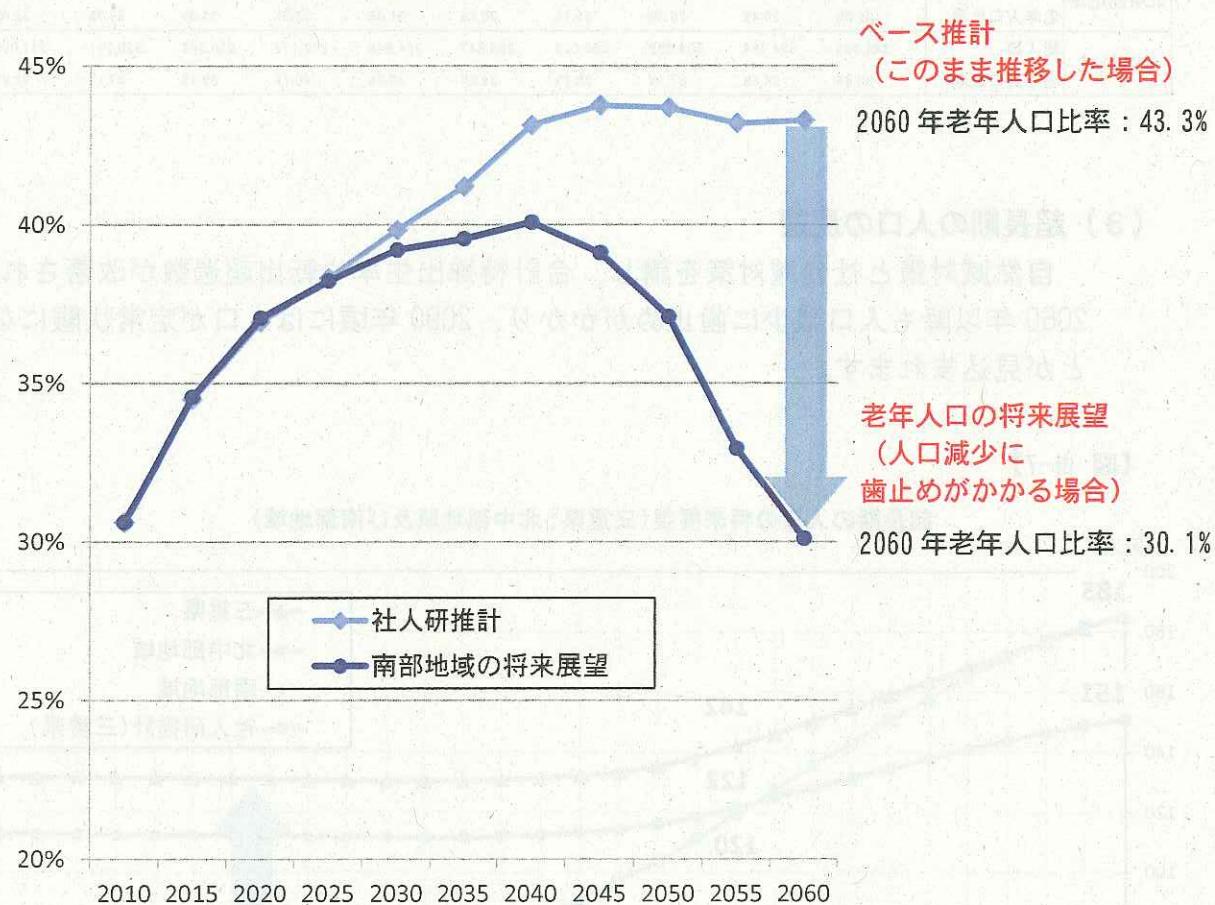
(注1) ベース推計は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」による。2040～2060年は、2040年までの仮定等を基に、三重県戦略企画部において機械的に延長したものである。

(注2) 将来展望は、国立社会保障・人口問題研究所における人口の将来推計を参考にしながら、「合計特殊出生率」及び「転入超過数」の仮定値を変更した場合について、三重県戦略企画部においてシミュレーションを行ったものである。

③ 南部地域の老人人口の展望

図III-6に示す推計によると、老人人口比率は、2010年時点では約31%で、3.2人に1人が65歳以上の高齢者となっていますが、このまま推移した場合では、2055年頃に約43%で高止まりし、2.3人に1人が65歳以上の高齢者になると見込まれています。これに対して、人口減少に歯止めをかける場合、老人人口比率は2040年頃に約40%でピークに達した後は低下し始めます。

【図 III-6】 南部地域の将来老人人口比率のベース推計と将来展望



(注1) ベース推計は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」による。2040～2060年は、2040年までの仮定等を基に、三重県戦略企画部において機械的に延長したものである。

(注2) 将来展望は、国立社会保障・人口問題研究所における人口の将来推計を参考にしながら、「合計特殊出生率」及び「転入超過数」の仮定値を変更した場合について、三重県戦略企画部においてシミュレーションを行ったものである。

【表 III-4】

【ベース推計(国立社会保障・人口問題研究所(社人研)推計準拠)】

	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総人口	1,854,694	1,821,237	1,773,206	1,714,490	1,649,458	1,580,095	1,507,646	1,432,841	1,356,299	1,276,780	1,195,968
老人人口比率	24.3%	27.8%	29.8%	30.8%	32.0%	33.5%	36.0%	37.3%	37.9%	38.0%	38.0%

【シミュレーション結果】

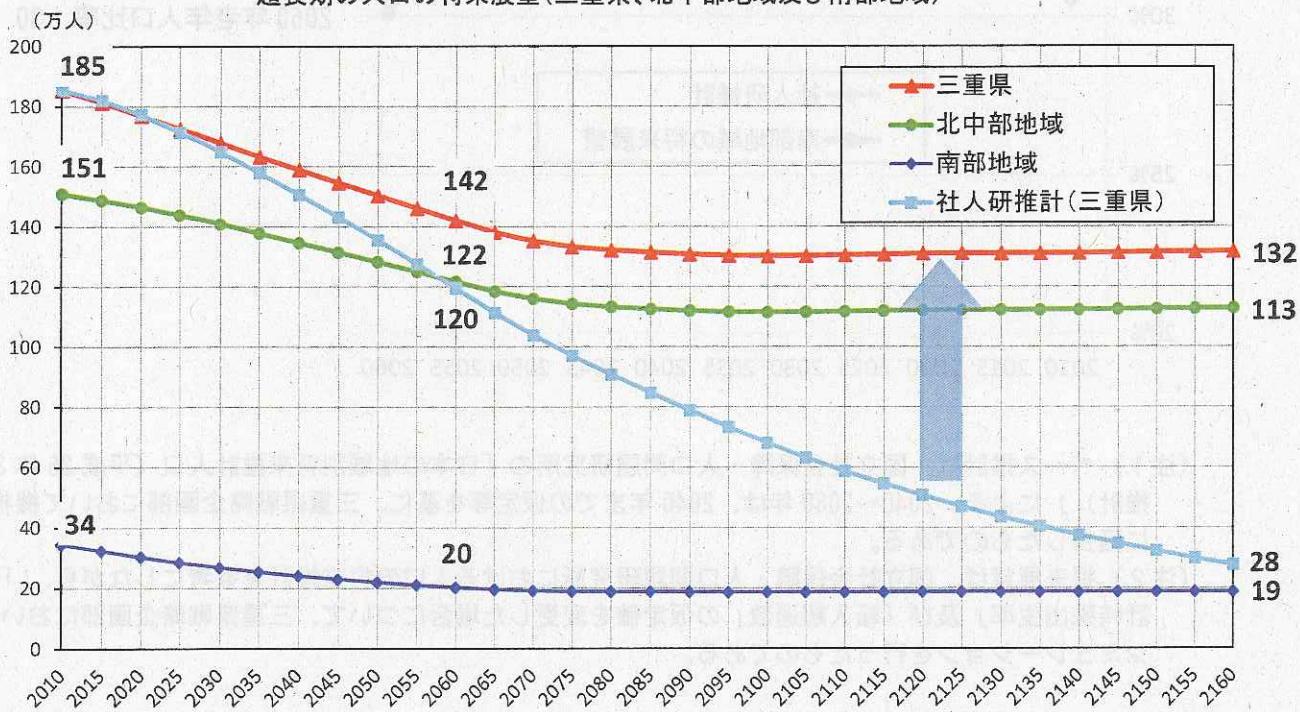
		2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
三重県	総人口	1,854,694	1,813,396	1,789,454	1,724,381	1,678,262	1,633,151	1,589,228	1,545,659	1,503,680	1,461,780	1,420,625
	老人人口比率	24.3%	27.9%	29.8%	30.6%	31.6%	32.6%	34.3%	34.7%	34.2%	32.5%	30.9%
北中部地域	総人口	1,509,709	1,488,633	1,464,873	1,438,768	1,409,415	1,378,303	1,347,056	1,315,117	1,283,469	1,250,682	1,217,370
	老人人口比率	22.8%	26.4%	28.3%	29.1%	30.1%	31.3%	33.3%	34.0%	33.7%	32.4%	31.1%
南部地域	総人口	344,985	324,764	304,582	285,613	268,847	254,848	242,172	230,542	220,211	211,098	203,255
	老人人口比率	30.6%	34.6%	37.1%	38.2%	39.2%	39.6%	40.1%	39.1%	37.1%	32.9%	30.1%

(3) 超長期の人口の展望

自然減対策と社会減対策を講じ、合計特殊出生率や転出超過数が改善された場合、2060年以降も人口減少に歯止めがかかり、2090年頃には人口が定常状態になることが見込まれます。

【図 III-7】

超長期の人口の将来展望(三重県、北中部地域及び南部地域)



2 対策の方針

人口減少に関する課題に取り組み、地域の自立的かつ持続的な活性化を実現するには、すべての県民、関係者等が自らの地域と人口減少に関わる現状と課題を正しく理解し、めざすべき姿を共有した上で、アクティブ・シチズンとしてより一層の協創を進めることが重要です。

このため、県は、次に示す人口の自然減対策と社会減対策を車の両輪として着実に推進するとともに、積極的な情報発信やさまざまな立場の人や組織を結びつける取組などを推進します。

また、これらの取組を効果的に推進するために、県民の皆さん的安全・安心を下支えるさまざまな基盤づくりの推進に取り組みます。

さらに、県と市町が相乗効果を發揮して、地域全体の魅力を高めていくことができるよう、市町と緊密な連携・協力を進めていきます。

(1) 人口の自然減対策

自然減対策は、「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」を基本に、「結婚・妊娠・子育てなどの希望がない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重」をめざすべき社会像として設定し、「子ども・思春期」、「若者／結婚」、「妊娠・出産」、「子育て」のライフステージごとに「働き方」も含めた切れ目のない取組を進めています。

(2) 人口の社会減対策

社会減対策は、「みえ産業振興戦略」のローリングや南部地域活性化の取組などの従来の取組に加えて、「学びたい」「働きたい」「暮らし（続け）たい」という希望をかなえるために、人口減少の抑制をめざす「攻めの対策」と今後数十年にわたり継続する人口減少及び人口構成割合の変化への適応をめざす「守りの対策」により、人口の社会移動の契機となる、進学時の対応としての「学ぶ」、就職・転職時の対応としての「働く」、人を引き付ける魅力ある地域としての「暮らす」のライフシーンごとの幅広い視点から取組を進めています。

3 おわりに

本県における人口の現状を分析し将来を展望してきましたが、国では、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルを克服するため、次元の異なる施策を大胆に実施していくこととしています。

地方創生をこれまでの延長線上のものとしないためには、地域が人口減少の現実と危機感を共有するとともに、その厳しい状況においても希望を持ち、地域の多様な資源を生かして、新たな価値をつくり出していく必要があります。

人口減少に歯止めがかかるには長い時間を要することから、将来をしっかりと視野に入れ、県民の皆さんのがんえることで、人口減少下でも豊かで活力あるふるさとづくりに着実に取り組んでいく必要があると考えています。

**三重県人口ビジョン(仮称)
最終案**

平成 27 (2015) 年 9 月

三重県戦略企画部企画課

〒514-8570 津市広明町13番地

Tel : 059-224-2025

Fax : 059-224-2069

E-mail : kikakuk@pref.mie.jp

URL : <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/sousei/>